

施工要領書

この度は当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
正しく施工いただく為に、必ずこの施工要領書をお読みください。

目次

①必ずお読みください	……P1
②最重要注意点	……P2
③梱包部材表	……P4
④組立概要図	……P5
⑤基礎図	……P6-P7
⑥標準施工方法	……P8-P29

よこ 貼り専用

施工者様へ ⚠️ 必ずお読みください

本文中の赤字及び赤字の内容を守らず施工し不具合が発生した場合、弊社は一切の保証を致しかねます。予めご了承下さい。

施工前の注意点

☐ 商品お受け取りの際の注意とお願い

- 商品が届いた際は、速やかに検品を行い、輸送による破損や内容に不備が無いかを必ずご確認下さい。
- 万一不備があった際は購入された販売代理店様に早急にご連絡下さい。

商品保管上の注意

- 材料を運搬・保管する場合は、**支持点（水平）を3点以上にし、平らな屋内で保管をして下さい。**
- 雨ざらしや、カーポート下、または屋外でブルーシートをかけて保管した場合、**商品にカビ・シミなどが発生する場合がありますので、必ず屋内に保管して下さい。**
万一、カビ・シミが発生した場合、有償での交換とさせていただきます。
- 高温による部材変形を防ぐため、暖房機や焚火の近くにはおかないでください。
- 直射日光や、強い日差しにあたる場所に放置した場合、反り・ねじれが発生する場合があります。
この反り・ねじれは、組み立て時にビス止めする事で矯正する事ができますので、品質には問題ありません。
- 商品の上に長時間に渡り重量物を載せないでください。変形の原因となります。

施工上の注意

- 施工終了直後は、再生木板に静電気が溜まり、木粉の接吻や粉じん・ほこりが板表面に付着しやすくなっています。その状態で雨が降った場合、「雨染み」が発生しやすくなるため、施工後直後はフェンスを水洗いし、表面を布などで吹いていただくことを推奨致します。

☐お問い合わせは

商品についてのご不明点や、納品内容にお気づきの点がある際は、下記までご連絡下さい。



株式会社 土新建材

TEL: 06-6976-5515

(電話応対：土日祝日を除く、平日：9～12時・13～18時まで)

メール: info@tuchishin.co.jp

右記 QR コードからメールアドレスを読み取りいただけます

※QR コードはデンソーウェーブの登録商標です



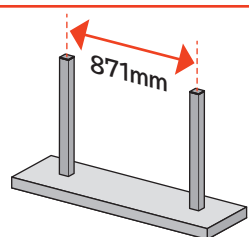
② 最重要注意点 (必ず以下の内容をお守り下さい)

施工者様へ ⚠️ 必ずお読みください

本文中の赤字及び赤字の内容を守らず施工し不具合が発生した場合、弊社は一切の保証を致しかねます。予めご了承下さい。

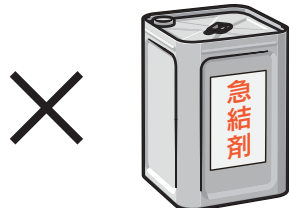
扉柱ピッチ：柱芯々 871mm

※特殊施工・特注を除く



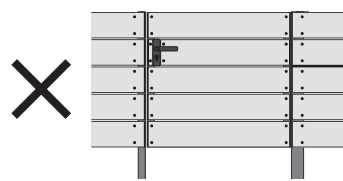
※柱ピッチに誤差があると扉が閉まらなくなる可能性があります

柱の埋設には急結モルタル使用禁止



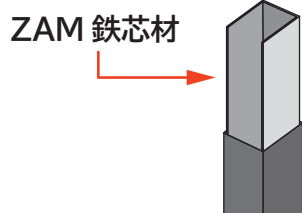
※アルミと科学反応して柱が腐食し、下地がヒビ割れて破損に繋がります

扉は完全独立型です 吊元柱・戸当柱は フェンス柱と兼用不可です



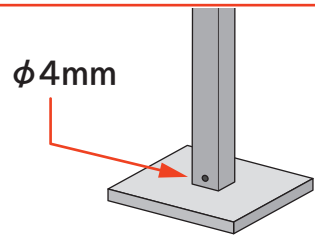
※ZAM 鉄芯が無い場合、強度不足による扉の傾きや倒れが起こります

吊元柱には必ず ZAM 鉄芯材を入れる



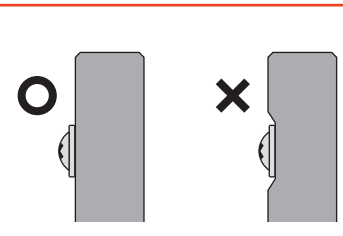
※ZAM 鉄芯が無い場合、強度不足による扉の傾きや倒れが起こります

柱には、φ4mm 以上の 水抜き穴を開ける



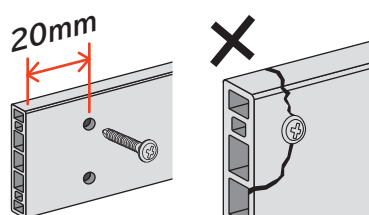
※水抜き穴を開けないと、凍結時に柱が膨張し破損する恐れがあります

ビスの留め方：強く留めず トルク 4Nm以下にする



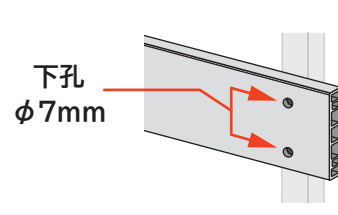
※強く留めない。ビス頭が食い込んでいると熱伸縮の際に破損します

ビス孔位置：板端部 から 20mm 以上離す



※端から 20mm 以下に打つと、経年後の割れ破損に繋がります

板のビス位置に 下孔を 7mm 開ける



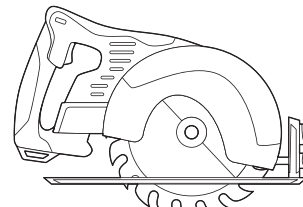
※下孔を開けないと、板が熱で伸縮した際、変形破損します

LIMITED (品番：LE1995) の板： 下孔開けの際は、当て板をし、 「木工用ドリルビット」を使用する

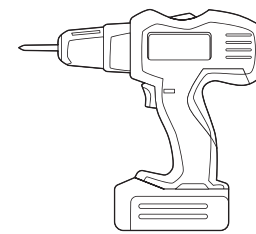
ビット	木工用	鉄工用
当て板	あり	なし

※孔の小口が欠けて汚くなります

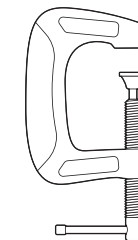
工事に必要な工具類



丸ノコ



インパクトドライバー



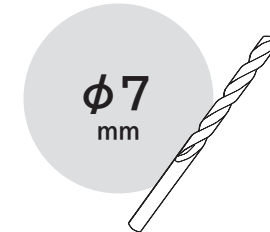
クランプ



六角ソケット



ドリルビット
吊元柱の丁番取付孔
穿孔用



ドリルビット
再生木板の下孔
穿孔用



ドリルビット
吊元柱の丁番取付孔
穿孔用



ドリルビット
レバーハンドル用ボックス
取付の下孔 穿孔用

※ドリルビットについて

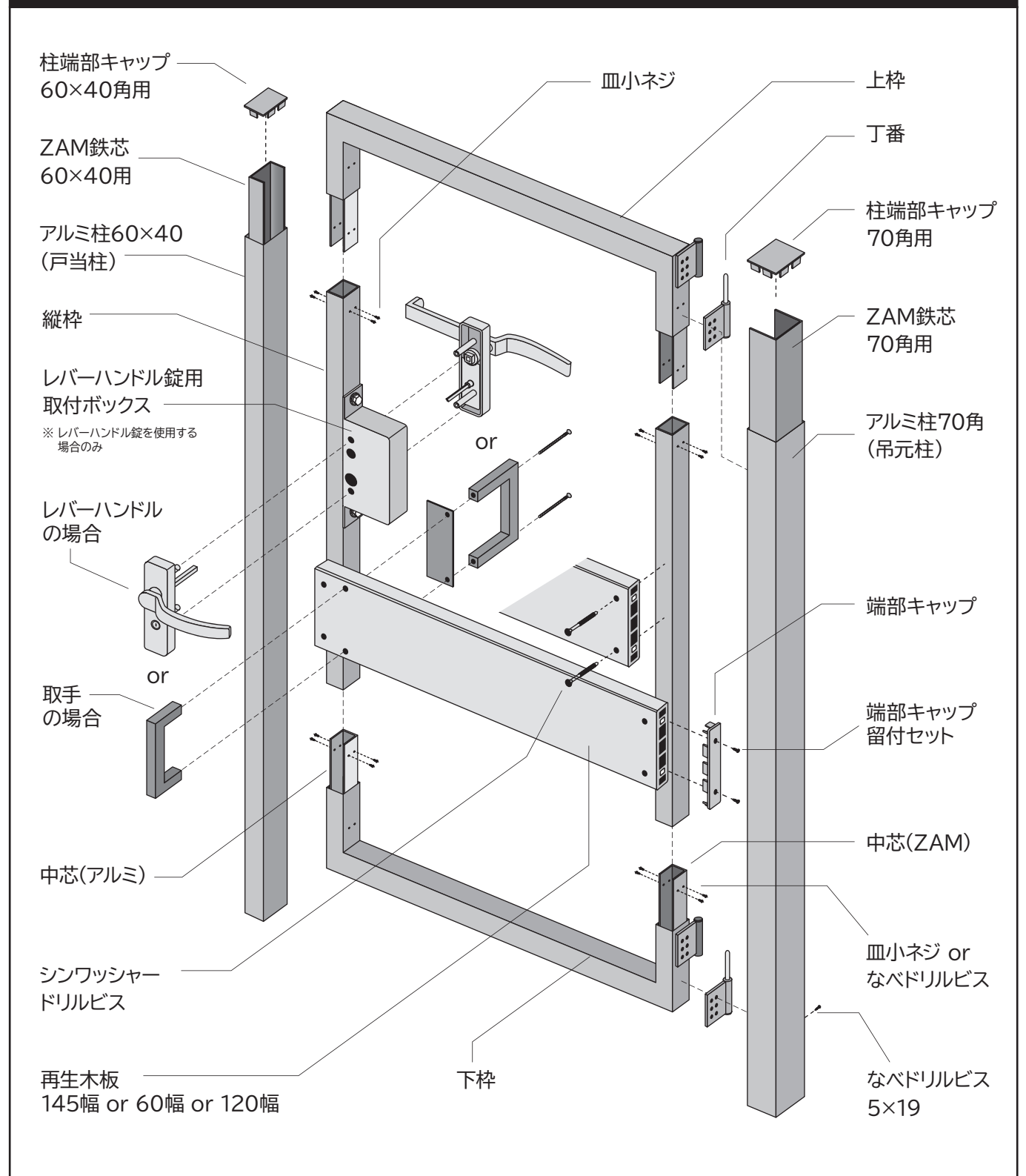


「LIMITED EDITION (品番 LE...)」の板には、必ず「木工用」をご使用下さい。
品番が「FF...」「ME...」の板には、「鉄工用」をお使い下さい。

③ 梱包部材表 梱包内容をご確認ください。

商品図	商品名	サイズ・仕様	品番	入数(最大)
	再生木板 145×20	145×20×1995	FF1995□□	4枚/箱
	再生木板 145×20	145×20×2200	FF2200□□	4枚/箱
	再生木板 60×20	60×20×1995	FF6019□□	4枚/箱
	再生木板 60×20	60×20×2200	FF6022□□	4枚/箱
	再生木板 120×20	120×20×1995	ME1219○○	3枚/箱
	再生木板 120×20	120×20×2200	ME1222○○	3枚/箱
	再生木板 145×20	145×20×1995 (LIMITED EDITION)	LE1995◇◇	4枚/箱
	端部キャップ 145×20用	145×20×20 (ASA樹脂製)	PCFFA□□or◇◇	1個
	端部キャップ 60×20用	60×20×20 (ASA樹脂製)	PCFFA6□□	1個
	端部キャップ 120×20用	120×20×20 (ASA樹脂製)	PCFFA2○○	1個
	端部キャップ用 留付セット	皿ビス3.5×16・アンカー (各10個ずつ入り/袋)	PAS☆☆	10個/袋
	アルミ柱 40角	L=1000 40×40×1000 (t=2)	PH4010△	1本
	アルミ柱 40角	L=1200 40×40×1200 (t=2)	PH4012△	1本
	アルミ柱 40角	L=1500 40×40×1500 (t=2)	PH4015△	1本
	アルミ柱 40角	L=2000 40×40×2000 (t=2)	PH4020△	1本
	アルミ柱 60×40	L=1000 60×40×1000 (t=2)	PH6010△	1本
	アルミ柱 60×40	L=1200 60×40×1200 (t=2)	PH6012△	1本
	アルミ柱 60×40	L=1500 60×40×1500 (t=2)	PH6015△	1本
	アルミ柱 60×40	L=2000 60×40×2000 (t=2)	PH6020△	1本
	アルミ柱 60×40	L=2500 60×40×2500 (t=2)	PH6025△	1本
	アルミ柱 70角	L=1800 70×70×1800 (t=2)	PH7018△	1本
	アルミ柱 70角	L=2100 70×70×2100 (t=2)	PH7021△	1本
	アルミ柱 70角	L=2500 70×70×2500 (t=2)	PH7025△	1本
	アルミ柱 70角	L=3000 70×70×3000 (t=2)	PH7030△	1個
	柱天端キャップ 40角用	(ASA樹脂製)	PC40△	1個
	柱天端キャップ 60×40用	(ASA樹脂製)	PC60△	1個
	柱天端キャップ 70角用	(ASA樹脂製)	PC702△	1個
	シンワッシャードリルビス	5×40 (38本/袋)	PSW☆☆	38本/袋
	ウルトラ多用途SU	10ml (プレミアム ソフト / クリヤー色)	05139	1本
	穴あけ治具	145×20mm 板用	PJG145	1個
	穴あけ治具	60×20mm 板用	PJG60	1個
	穴あけ治具	120×20mm 板用	PJG120	1個
	スペーサー	スペーサー (6個 / 1セット) 5・10・15・20・25・30mm いずれか	PSP◎◎	1セット
	ZAM 鉄芯 40角用	t=2.3 35×54.5×35×1829	PZAM40U	1本
	ZAM 鉄芯 60×40用	t=3.2 65×65×65×1829	PZAM60U	1本
	ZAM 鉄芯 70角用	t=2.3 35×35×35×1829	PZAM703U	1本
	ZAM 鉄芯 70角用	t=3.2 65×65×65×2438	PZAM7024	1本
	なべドリルビス	5×19 (50本/袋)	519PW1K△	1袋
	扉半ユニットセット	右吊元・内開き/左吊元・外開き 用 扉フレーム(上下枠)×2本、(縦枠)×2本、 中芯×4本、丁番×2個、丁番スペーサー×6枚、 戸当り×1個、皿小ネジ5×16:16本、 皿小ネジ5×30:12本、なべドリルビス5×19:12本 ターンナットM5:12	PSET11△ PSET13△(特注)	1セット
	扉半ユニットセット	右吊元・外開き/左吊元・内開き 用 扉フレーム(上下枠)×2本、(縦枠)×2本、 中芯×4本、丁番×2個、丁番スペーサー×6枚、 戸当り×1個、皿小ネジ5×16:16本、 皿小ネジ5×30:12本、なべドリルビス5×19:12本 ターンナットM5:12	PSET12△ PSET14△(特注)	1セット
	取手セット ※1 ※色: B・S のみ	取手(おもてうら)×各1個、皿ネジ×2本、 平板×1枚、打ち掛け錠(シルバー)	PSET5△	1セット
	レバーハンドルセット ※1 ※色: B・S のみ	レバーハンドル錠セット ハンドル(表)×1個、ハンドル(裏)×1個、 錠受×1個、シリンダーキー×3本、皿ネジ5×45:2本、 錠受取付用インプラナット(M5)×2個、 皿ネジ5×40:2本 取付用ボックス×1個、インプラナット(M8)、 ボルト・平・バネワッシャー×各2個	PSET6△	1箱

④ 組立概要図



■Color : 記号部分には、以下をそれぞれ入れて下さい。

□□ : BR(ブラウン) SB(サンディーブラウン) SGR(シックグレー) GG(グレイジュ)	○○ : MO(モカ) BE(ベージュ)	◇◇ : WH(ホワイト) BG(ブルーグレー)	△ : B(ブラック) S(ステンカラー) W(ホワイト)	◎◎ : 5・10・15 20・25・30
--	-------------------------	-----------------------------	-------------------------------------	--------------------------

※色記号「☆☆」には、板色と同じ色記号を入れて下さい

※1 : ホワイト(W)色はご用意がありませんのでご注意ください

※商品の仕様・内容は、改良の為に予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。

①必ずお読み下さい

②最重要注意点

③梱包部材表

④組立概要図

⑤基礎図

⑥標準施工方法

①必ずお読み下さい

②最重要注意点

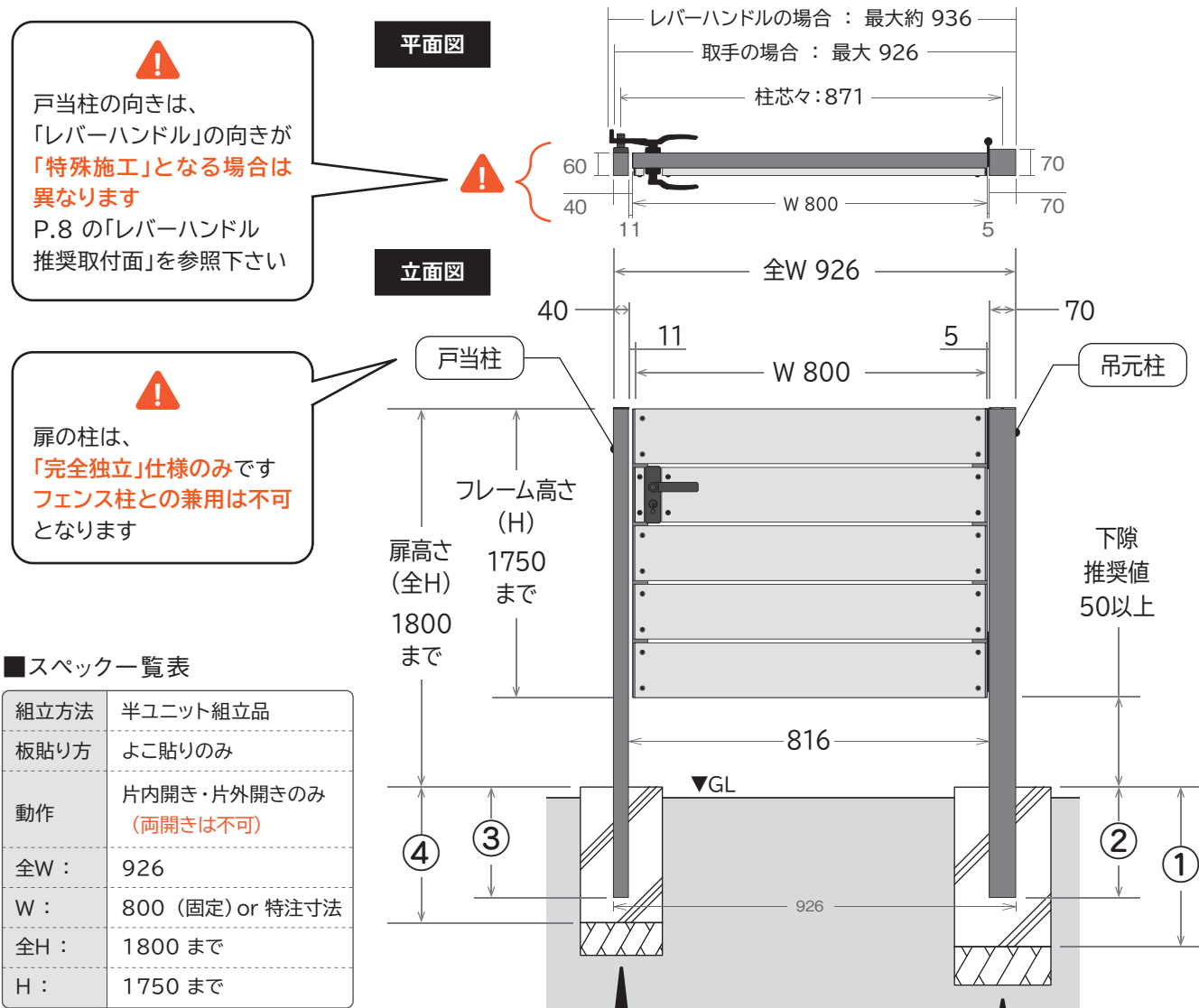
③梱包部材表

④組立概要図

⑤基礎図

⑥標準施工方法

⑤ 基礎図 (完全独立)



■スペック一覧表

組立方法	半ユニット組立品
板貼り方	よこ貼りのみ
動作	片内開き・片外開きのみ (両開きは不可)
全W：	926
W：	800 (固定) or 特注寸法
全H：	1800 まで
H：	1750 まで

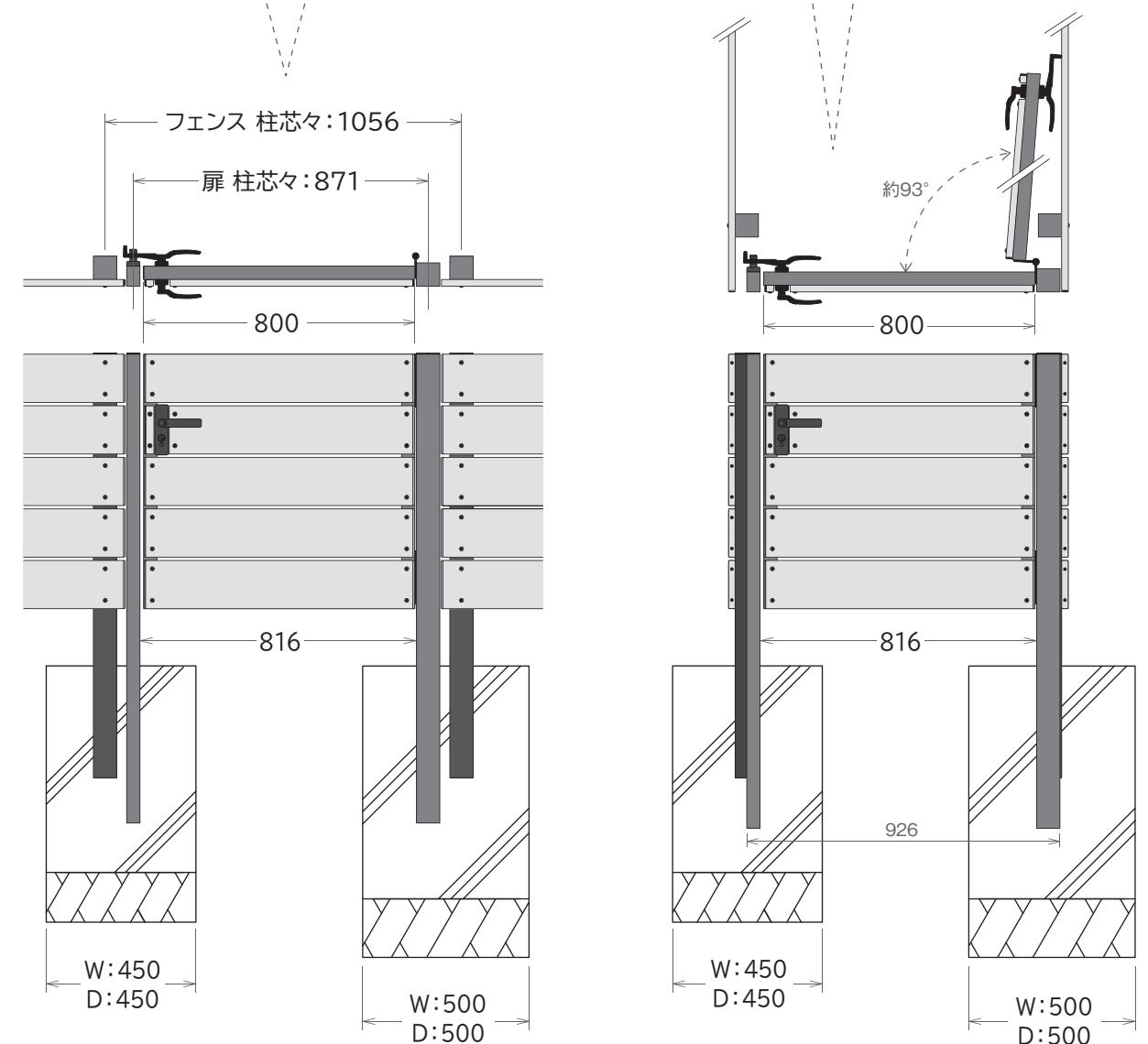
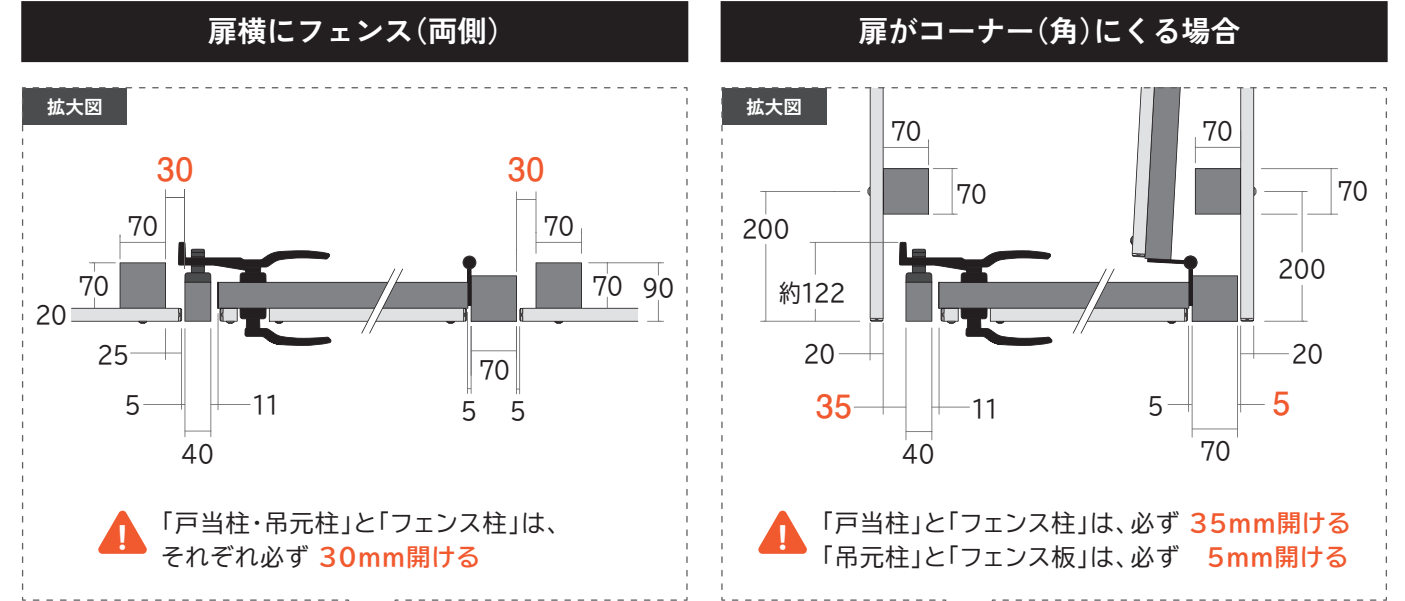
フェンス高さ		H=1200まで	H=1201~1500	H=1501~1800
吊元柱	① 基礎寸法	巾350 × 厚350 根入600	巾450 × 厚450 根入700	巾500 × 厚500 根入700
	② 柱埋込深さ	400mm以上	450mm以上	500mm以上
戸当柱	③ 基礎寸法	巾300 × 厚300 根入400	巾450 × 厚450 根入450	
	④ 柱埋込深さ	200mm以上	300mm以上	

基礎工事について

- ⚠ 基礎は上記指定の寸法にしてください。
- ⚠ 寒冷地で凍上する恐れのある地域の場合は、凍上線の下まで基礎を設けて下さい。
- ⚠ 基礎部の埋込み深さは製品ごとに決まっていますが、現場によって(堅牢地盤、軟弱地盤)基礎部のコンクリートの量(体積)を十分配慮してください。
- ⚠ 塩分を含む砂及び塩素系のモルタル混和材は使用しないでください。腐食の原因になります。
- ⚠ コンクリート(モルタル)には、急結剤は使用しないでください。使用するとアルミが腐食する原因になります。

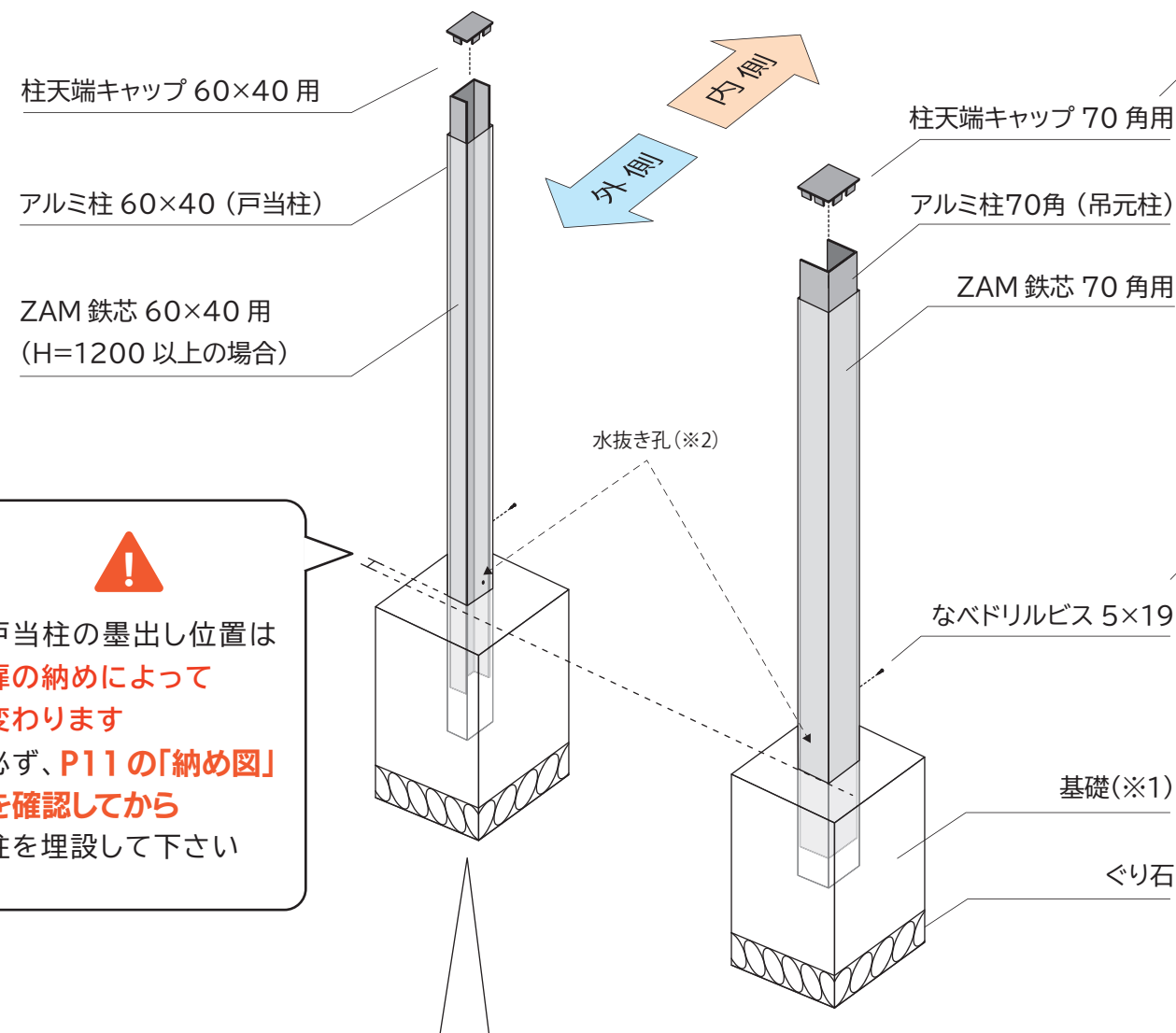
⑤ 基礎図 (フェンス併設の場合・コーナー扉の場合)

(右吊元/内開き(押戸)/レバーハンドルの場合)



- ⚠ 「戸当柱・吊元柱」の埋込深さは、扉の高さによりP6の表に基づいて施工して下さい
「フェンス柱」の埋込深さは、フェンス用の施工要領書を参照して下さい

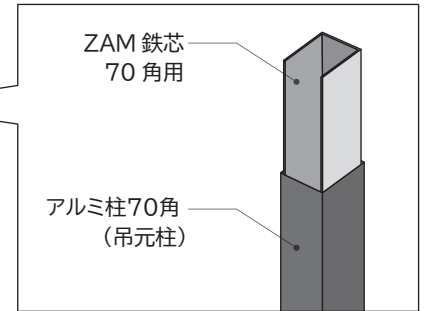
1 吊元柱・戸当柱を埋設する



!
戸当柱の墨出し位置は扉の納めによって変わります
必ず、P11の「納め図」を確認してから柱を埋設して下さい

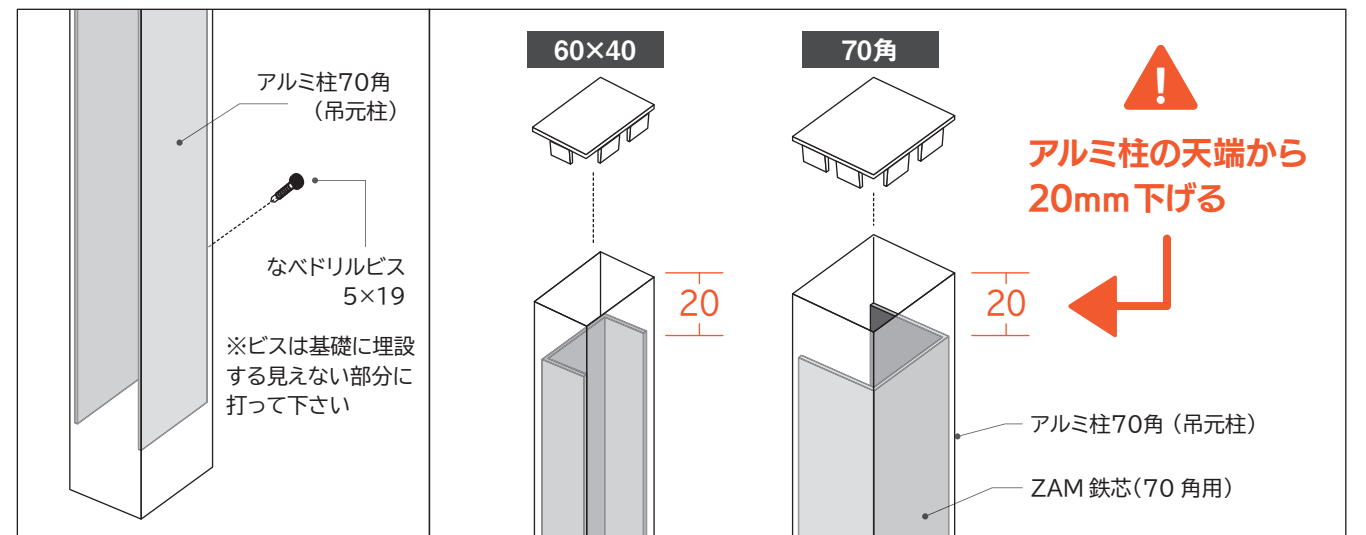
①
吊元柱：『アルミ柱70角』と『ZAM鉄芯材』を、見積書に記載の『カット指示』の通りにカットする。
戸当柱：『アルミ柱60×40』と『ZAM鉄芯材』も同様にカットする。

②
吊元柱の『アルミ柱70角』に『ZAM鉄芯70角用』を挿入する
! 高さがH=1200以上の場合
戸当り柱(アルミ柱60×40)にも『ZAM鉄芯60×40用』を挿入する



③
②のアルミ柱70角とZAM鉄芯を、『なべドリルビス5×19』で締結する。
戸当柱にもZAM芯材を入れた場合、同様にビスで締結する。

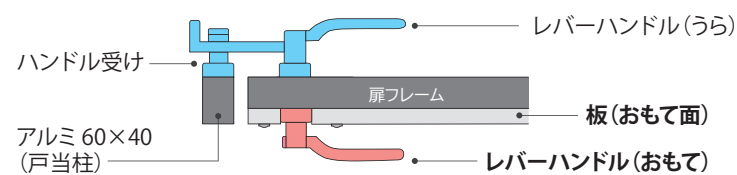
! 柱の天端には「柱天端キャップ」をはめるため、ZAM鉄芯の上端は、アルミ柱の天端から、20mm以上下げて取付して下さい。



レバーハンドルの推奨取付面と、戸当柱 埋設について

通常施工

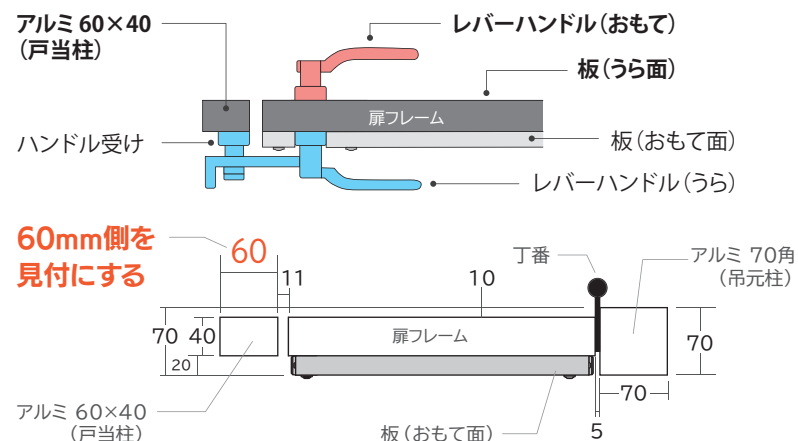
レバーハンドルの取付面は、「レバーハンドル (おもて)」を「板 (おもて面)」に取り付ける方法が、通常施工となります。



特殊施工

「レバーハンドル (おもて)」が「板 (うら面)」に来る場合は特殊施工となります。

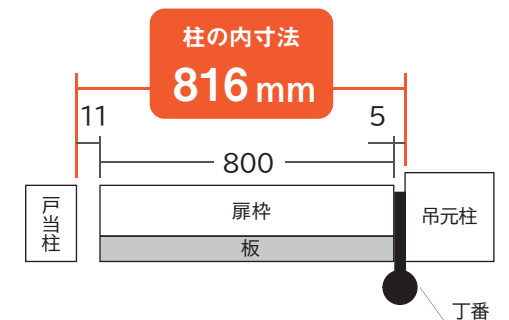
その場合は、戸当柱の向きを調整する事で施工可能です。現場判断にてご施工下さい。



吊元柱・戸当柱の柱内寸について

戸当柱と吊元柱の内寸法は必ず **816mm** として下さい。
柱の内寸法が **816mm 未満** の場合、後で調整ができませんので、扉の開閉に支障が出ます。
柱埋設時に柱の内寸法を必ず確認して調節して下さい。

万一広すぎる場合は、丁番スペーサー (P.19参照) を使用する事で、柱間寸法: **822mm以内** であれば調整可能 (※) です。
※丁番スペーサーでの調整幅は、2mmごとに、最大+6mmまでとなります



①必ずお読み下さい
②最重要注意点
③梱包部材表
④組立概要図
⑤基礎図
⑥標準施工方法

①必ずお読み下さい
②最重要注意点
③梱包部材表
④組立概要図
⑤基礎図
⑥標準施工方法

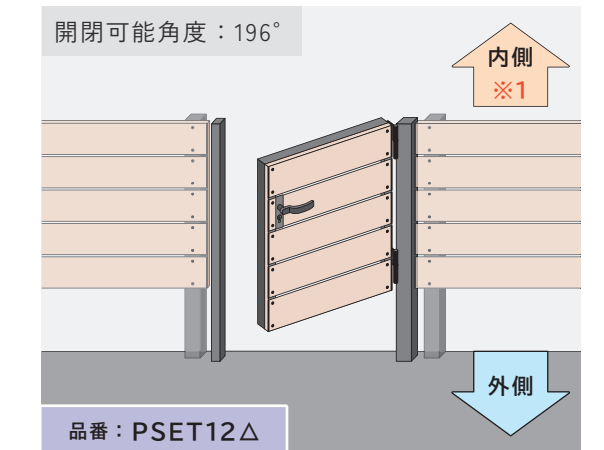
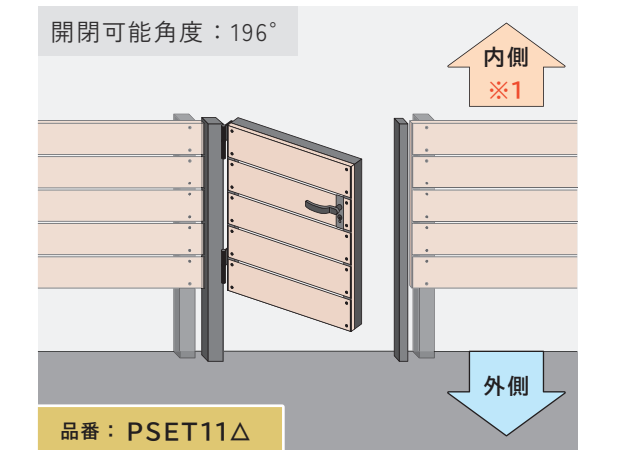
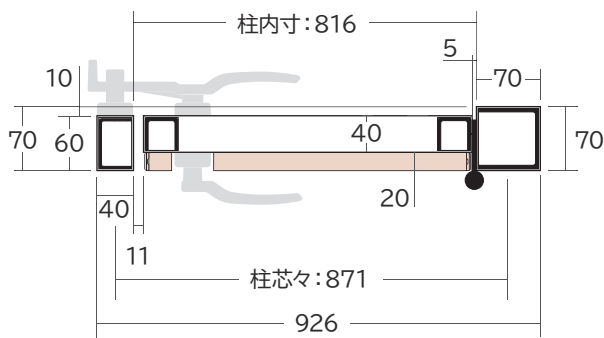
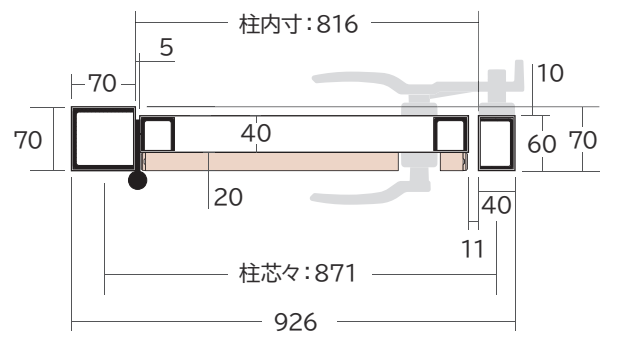
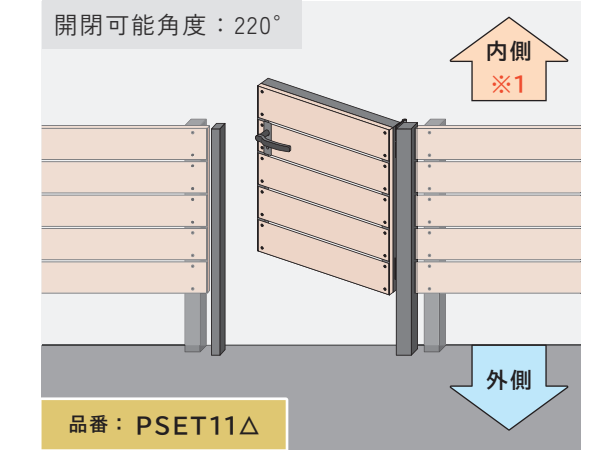
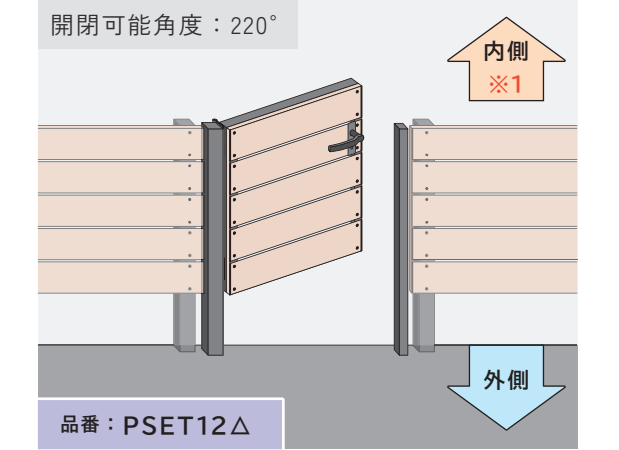
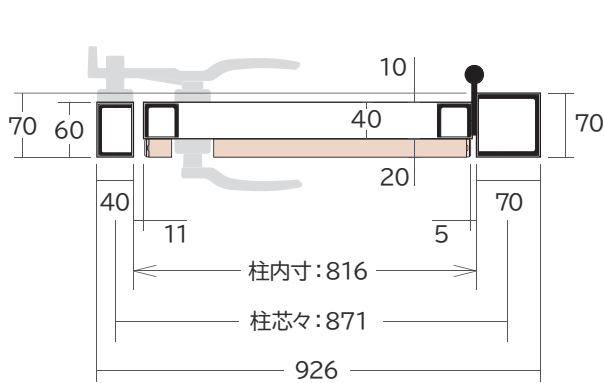
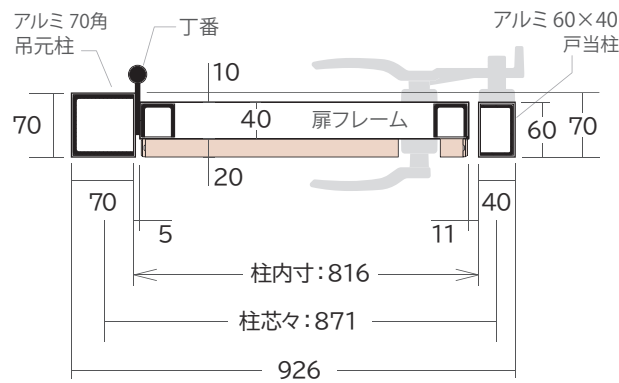
■ 納め一覧表

左吊元

右吊元

内開き

外開き



※扉の開閉可能角度は、周りに障害物がない場合のおおまかな目安角度です。吊元の丁番位置をずらした場合は角度が変わる場合があります。
 ※品番の「Δ」には、色品番が入ります

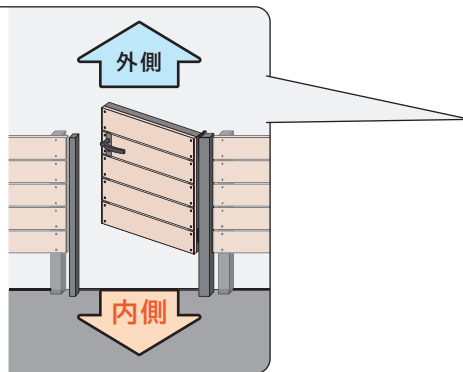
④

右のP11の <納め一覧表> を参照し、「左吊元 or 右吊元」・「内開き or 外開き」の、組み合わせ4パターンの中のいずれにあたるかを確認し、柱位置の墨出しをする。

注釈：※1



家の内側に板を貼る場合
 右記ページのイラストの「内側・外側」の表記を無視し、**実際の見え方と合致する納めを選び、施工して下さい。**



⑤

吊元柱と戸当柱を、基礎に埋設する。特に、吊元柱は下記図の通り向きを確認してから埋設する。

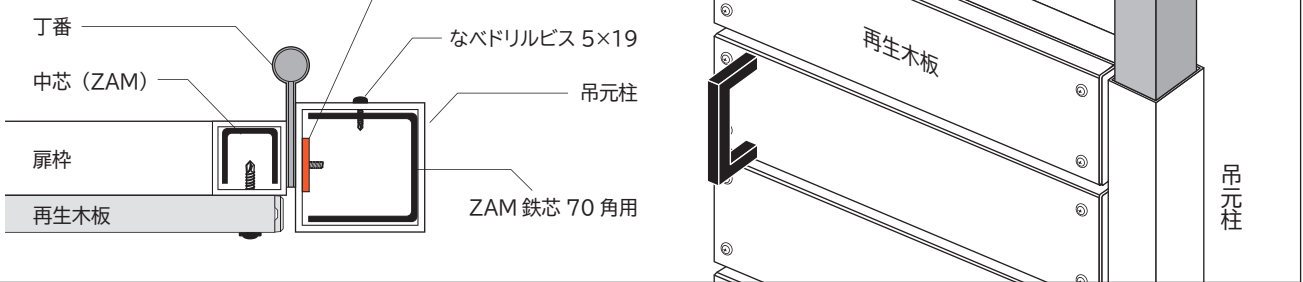
⚠ 基礎寸法は、扉高さに応じて、P6～P7の <基礎図>の基礎寸法表に基づいて施工して下さい。
 柱垂れ下がり防止の為、**基礎寸法は指定寸法以上**にして下さい。



吊元柱は、必ず「ZAM 鉄芯材」のコの字が開いた面を、フレーム側に向ける

丁番取付の際に
 ターンナットを仕込む為、
 ZAM 鉄芯の向きに注意

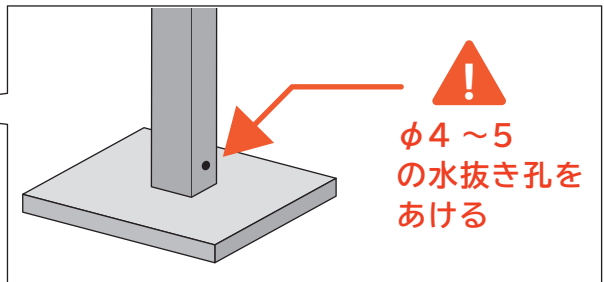
平面図



⑥

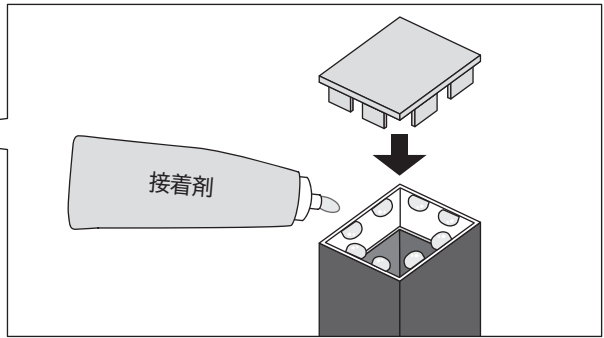
吊元柱・戸当柱ともに、GL面より5mm 程度上部の柱側面内側にφ4～5の水抜き孔をあける。

⚠ 水抜き穴を開けないと、凍結時に柱が膨張し破損する恐れがあります



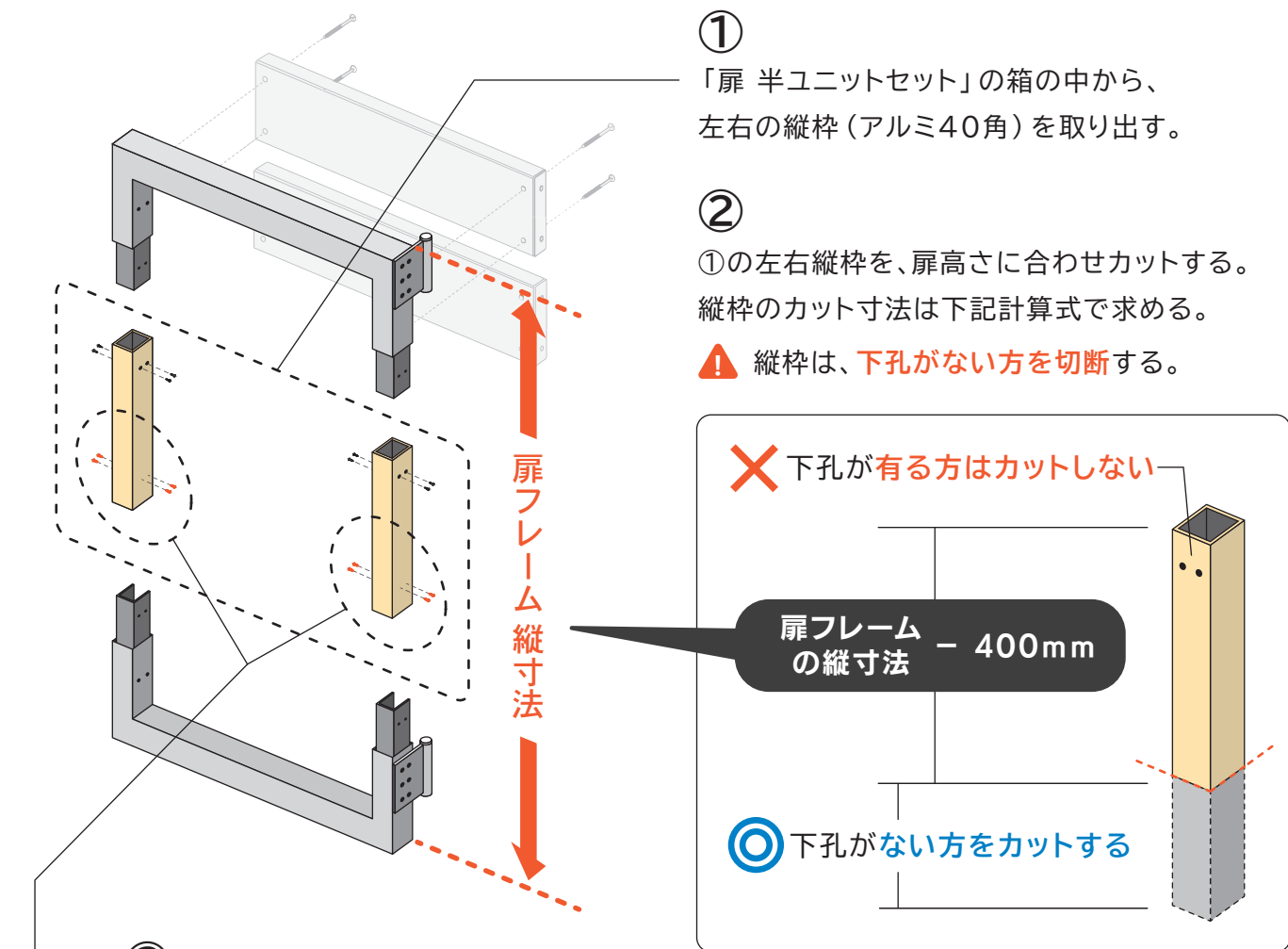
⑦

アルミ柱の天端に、『柱天端キャップ』を取付する。留付は、『ウルトラ多用途SU』もしくは市販の、アルミ・ASA樹脂接着用の接着剤を使用する。



2 扉フレームの「縦枠」を用意する

特注の扉フレームの場合、P13から始めて下さい。



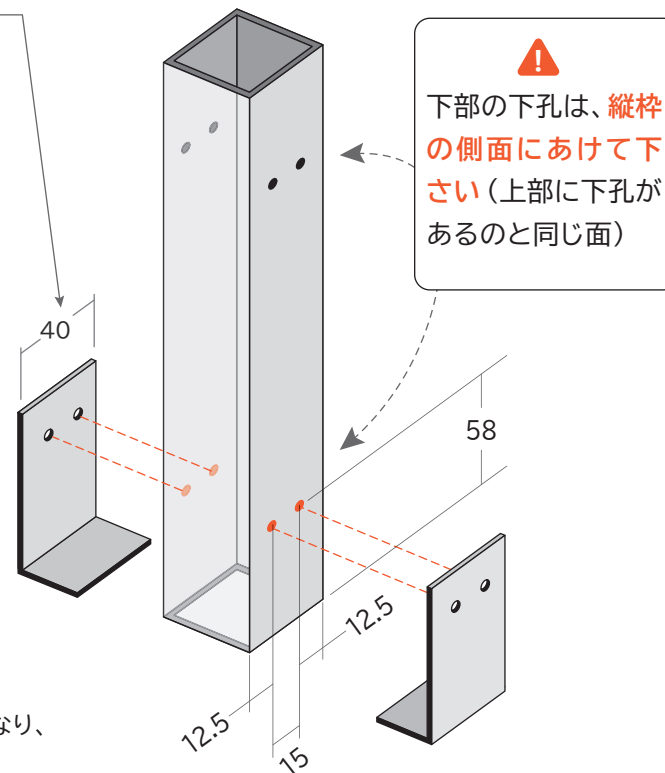
③ 『扉 半ユニットセット』の箱の中から【穴あけ治具（縦枠用）】を取り出す。

④ ②でカットした左右縦枠の下部に、穴あけ治具で墨付けをし、下記サイズの下孔を4か所あける。

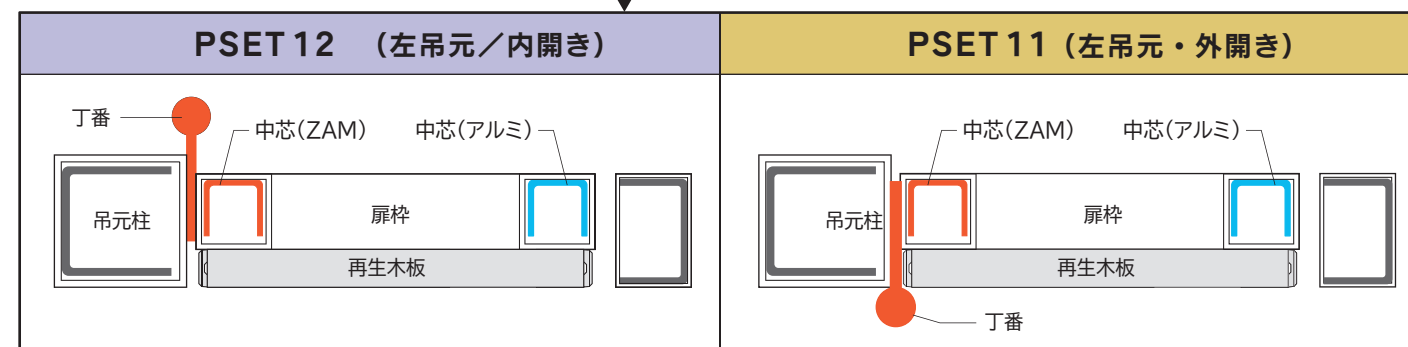
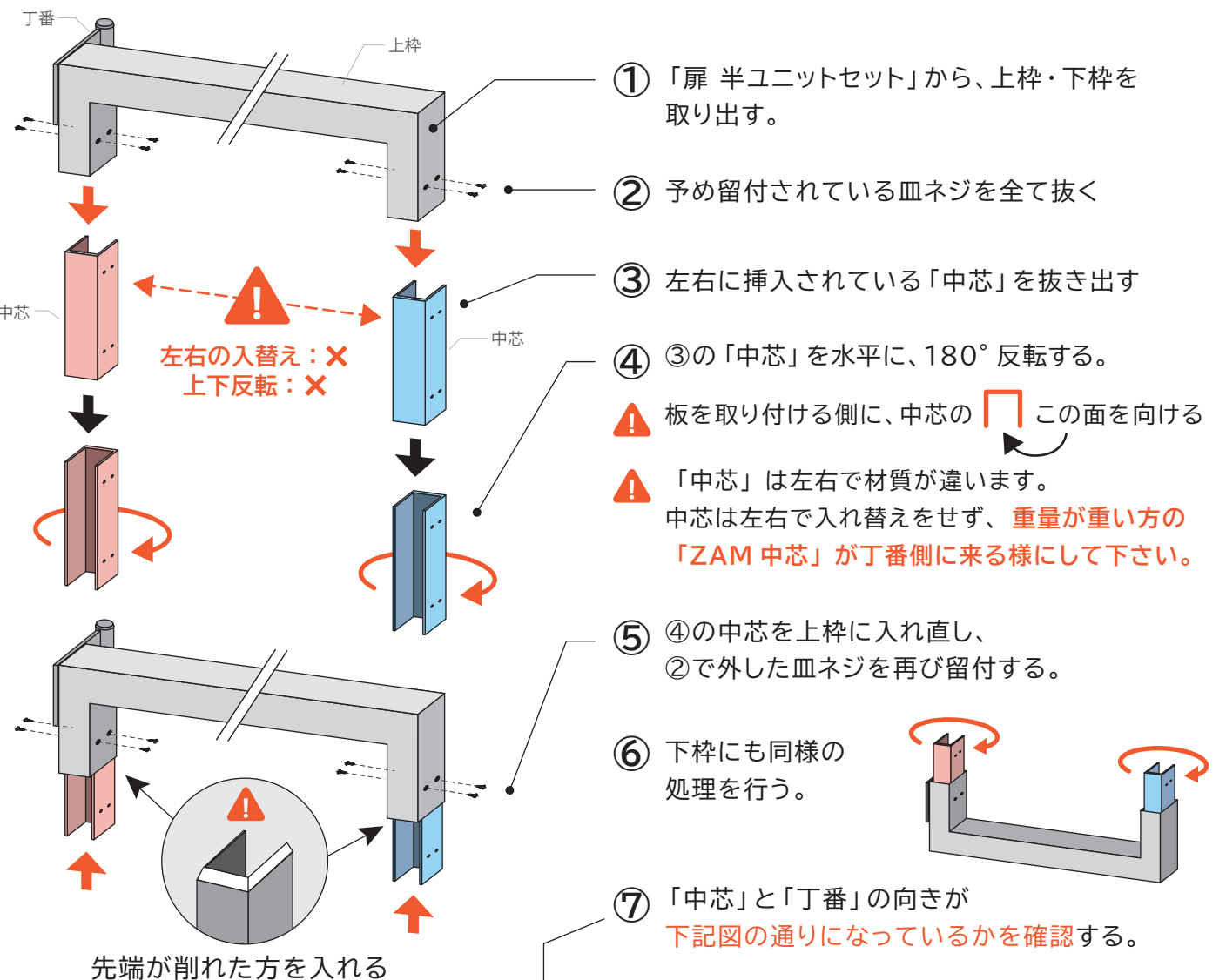
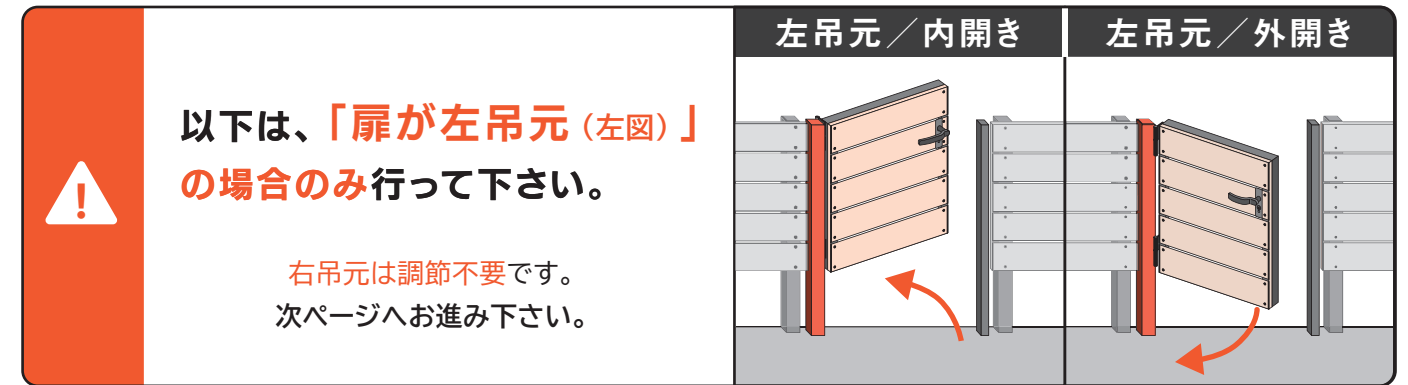
座掘りをする場合
座掘り… $\phi 9\text{mm}$
下孔… $\phi 5.5\text{mm}$

座掘りをしない場合
下孔… $\phi 4.2\text{mm}$

※座掘りをしない場合、その箇所は「なべビス」での留め付けとなり、ビス頭が出る仕上がりとなります。



3 扉フレームの「上下枠」を用意する



①必ずお読み下さい

②最重要注意点

③梱包部材表

④組立概要図

⑤基礎図

⑥標準施工方法

①必ずお読み下さい

②最重要注意点

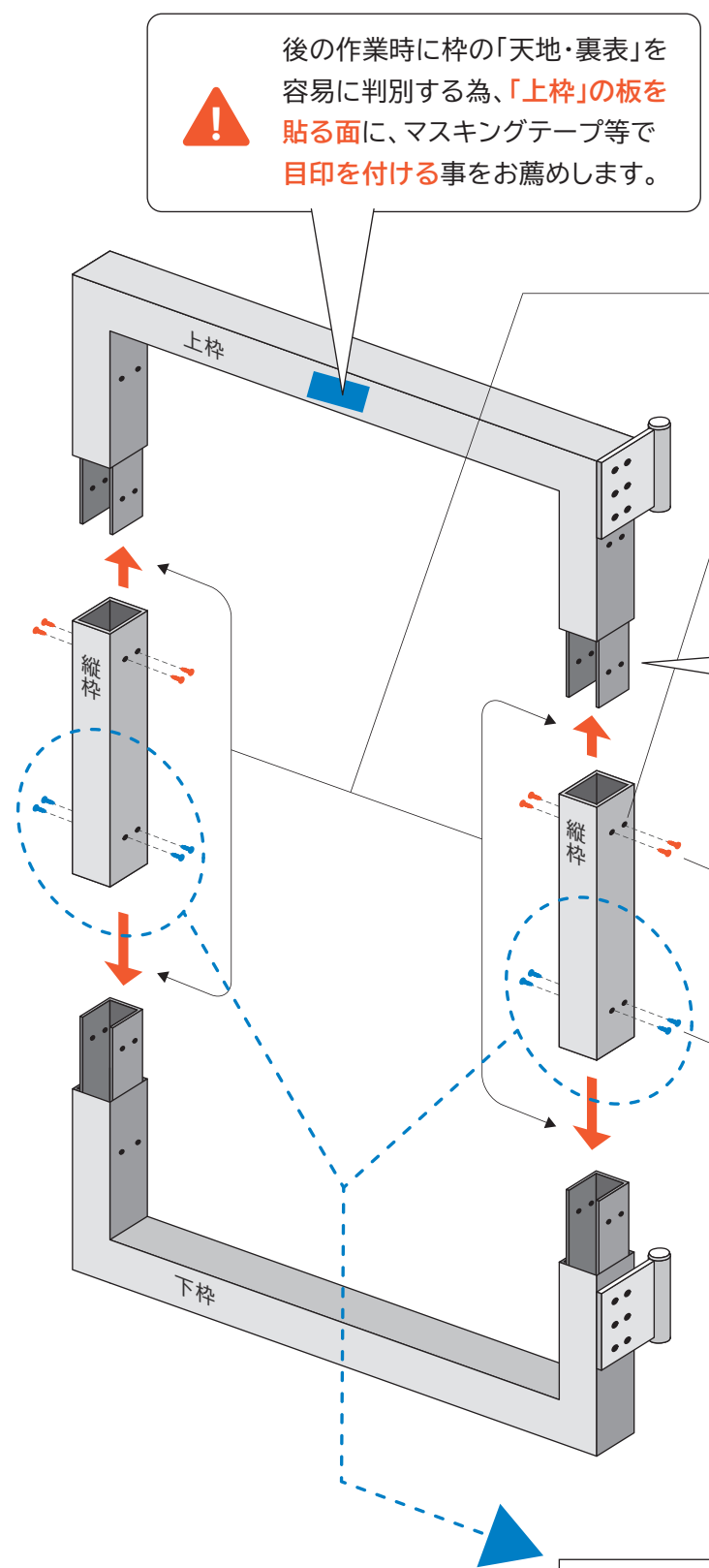
③梱包部材表

④組立概要図

⑤基礎図

⑥標準施工方法

4 扉フレームを組立する



① P12・13 で作業した「縦枠」と「上枠・下枠」を扉の仕様別に右図のように並べ、中芯の向き、丁番の向きが合っているか確認する

② ①の「上枠」・「下枠」に、左右の「縦枠」を挿し込む。

③ 「縦枠」の孔位置に「中芯」の孔が合致しているか確認し、孔位置を調節する



④ 「扉 半ユニットセット」の箱の中にある「ビスセット(袋入)」を取り出す。

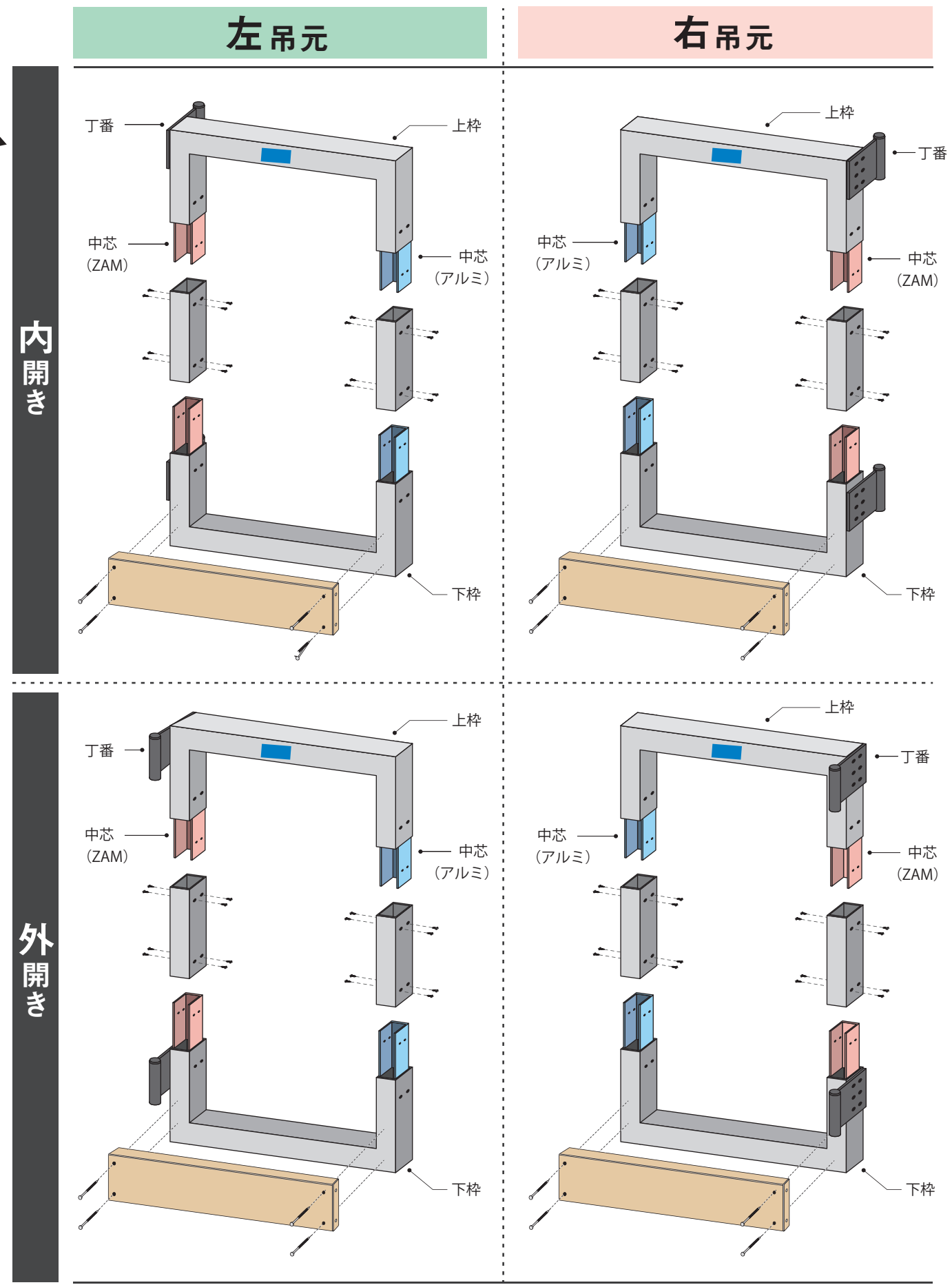
⑤ 縦枠の下孔スポット(合計16ヶ所)を④のセットの内、それぞれ下記ネジ・ビスを使って留め付けし、枠を組立する。

- 赤色の部分・・・皿小ネジ5×16
- 青色の部分・・・下記より選択

⚠ビス留めの際は、枠の継ぎ目をしっかり固定し、ネジを全体的に緩く仮留めして枠のズレやゆがみを修正してから本締めして下さい。ビスが斜めに入ると、枠がゆがみます。

⚠P12で作業した下孔に合わせて選択して下さい。

座掘り有り の場合	皿小ネジ 5×16 で留付する
座掘り無し の場合	なべドリルビス 5×19で留付する



⚠ 図中の青い目印のシールは、出荷時には付いていません。目印のシールは、現場での施工時に必要であればお付けいただき、最終的には剥がしてください。

①必ずお読み下さい

②最重要注意点

③梱包部材表

④組立概要図

⑤基礎図

⑥標準施工方法

①必ずお読み下さい

②最重要注意点

③梱包部材表

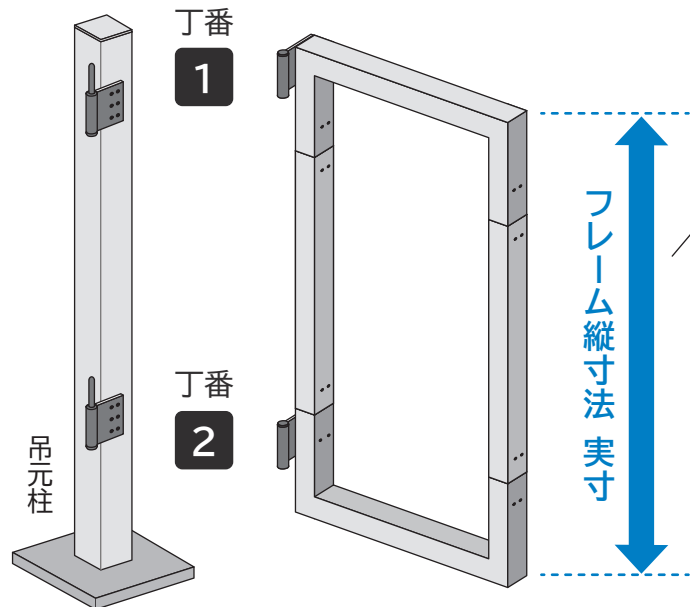
④組立概要図

⑤基礎図

⑥標準施工方法

5 吊元柱に、丁番の縦位置の墨出しをする

以下の墨出しは「扉フレーム」を「柱天端合わせ」とした場合の計算方式です。
柱天端合わせではない場合は、下記を参考に現場にてご調整下さい。

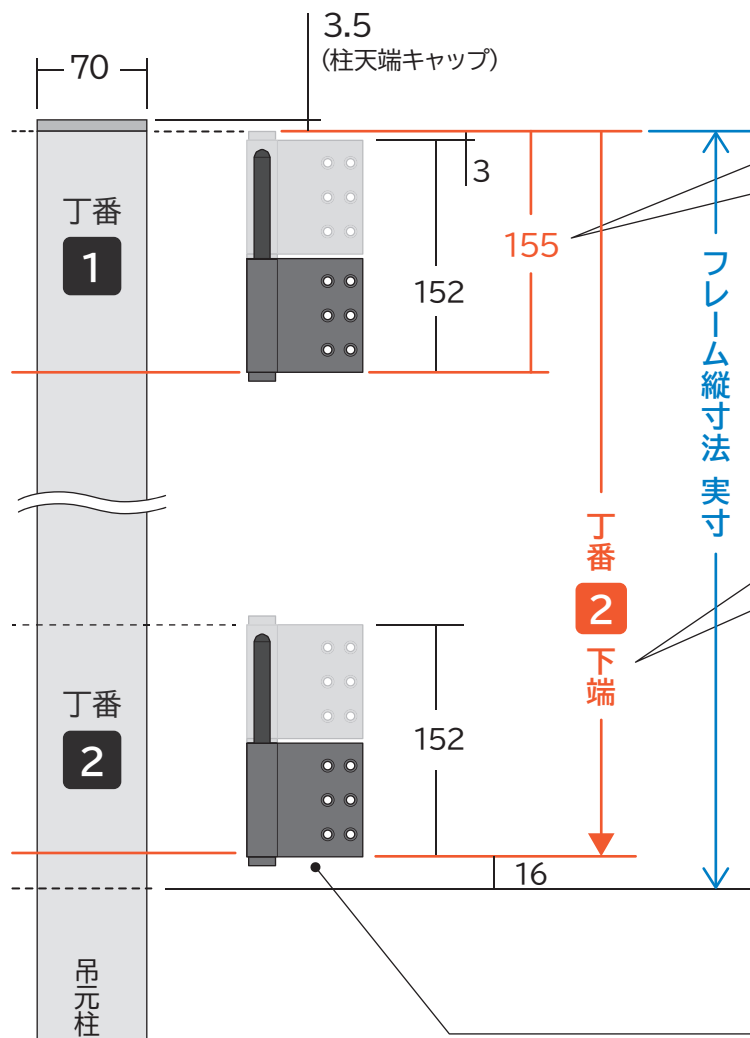


① 完成したフレーム高さの実寸を測る。
⚠ 図面寸法と実寸にわずかも誤差がある場合、**丁番位置にずれが生じ、扉の傾きに繋がります。必ず実寸を測って下さい。**

② 吊元柱と扉フレームに、旗丁番(1・2)を取り付けする縦位置を、下記方法で墨付けする。

丁番 1 は、柱天端から155mm下がったラインを、丁番の下端とする。
⚠ 柱天端に天端キャップは含めないで下さい

丁番 2 は、下記計算式を基に、丁番の下端ラインを求める。
フレームの縦寸法実寸 - 16mm

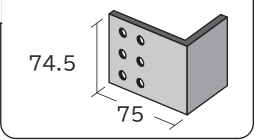


丁番	
φ20	
43	15 8
14.75	
22.5	74.5
22.5	
14.75	152
14.75	3
22.5	74.5
22.5	
14.75	

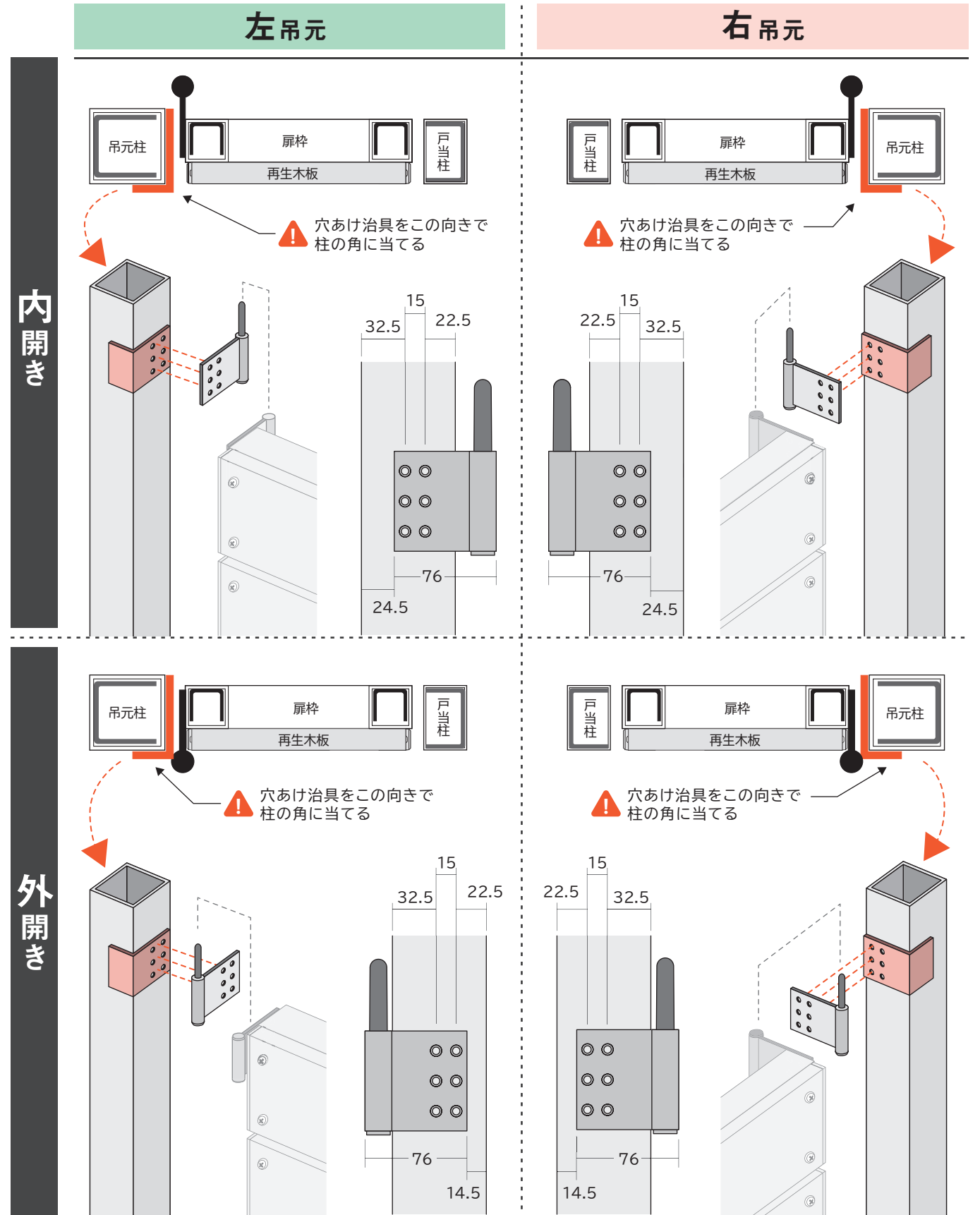
6 吊元柱に、丁番の横位置の墨出しをする

① 「扉 半ユニットセット」の中から、丁番用の穴あけ治具を取り出す。

丁番用穴あけ治具



② P16で墨付けした丁番下端ラインに、「丁番用穴あけ治具」の下端を当て、丁番(1・2)の横位置を下記図の通り墨付けして下さい。



①必ずお読み下さい

②最重要注意点

③梱包部材表

④組立概要図

⑤基礎図

⑥標準施工方法

①必ずお読み下さい

②最重要注意点

③梱包部材表

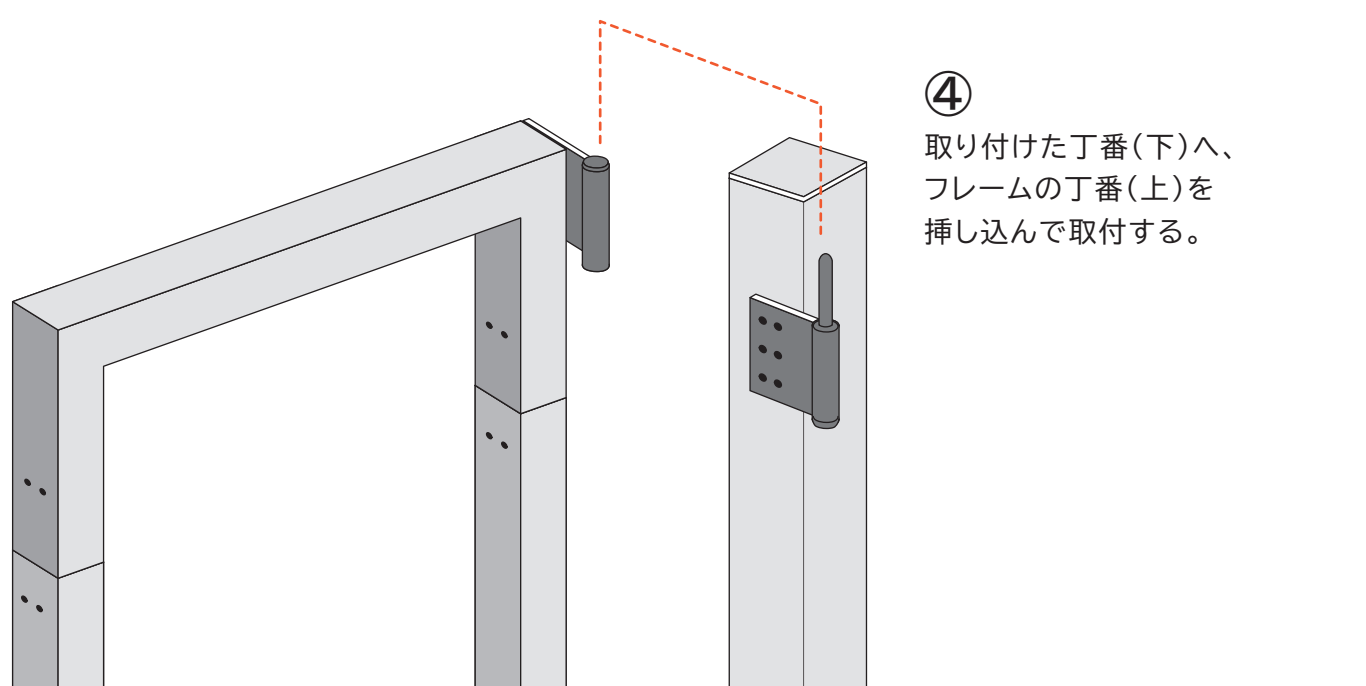
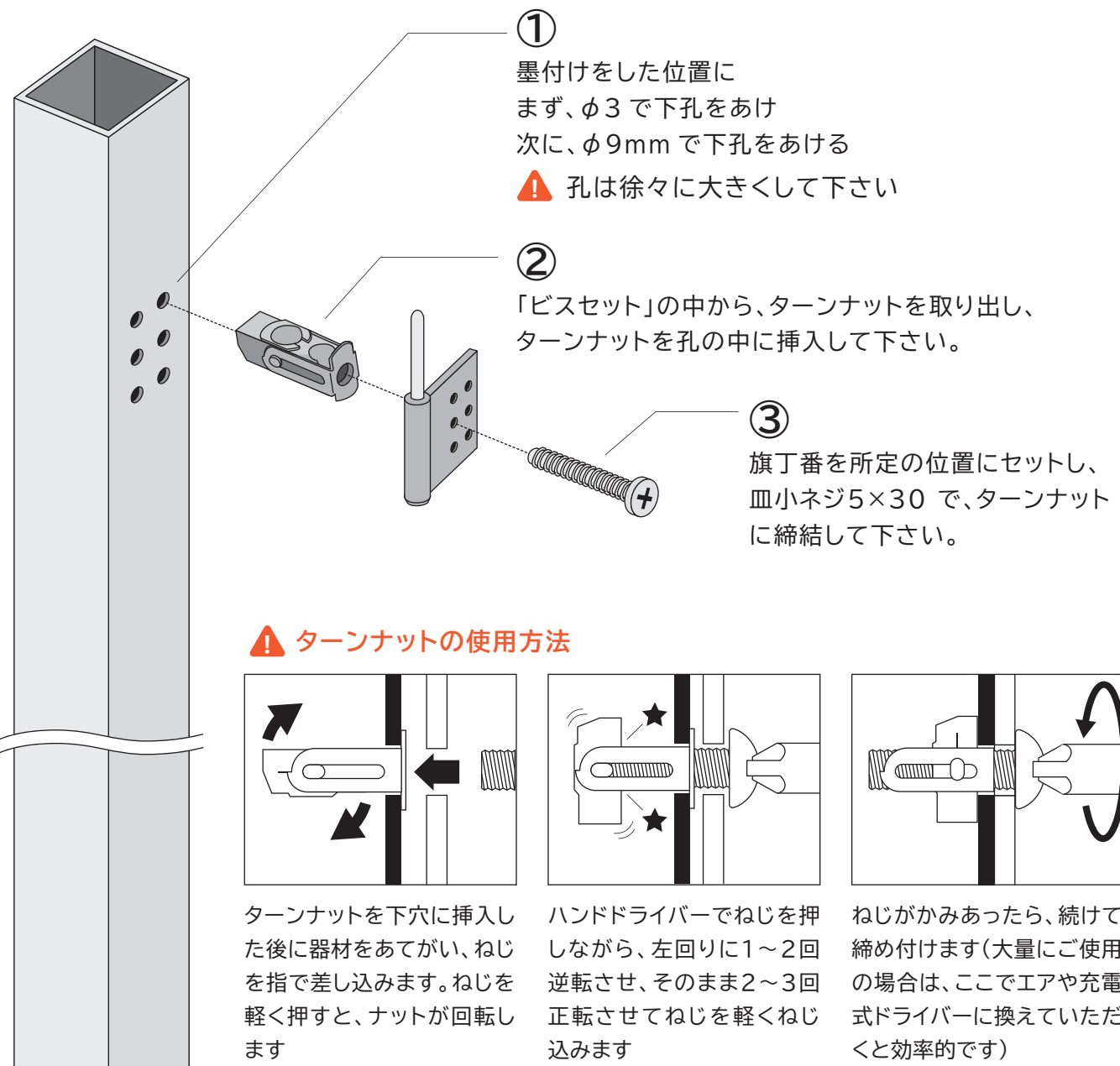
④組立概要図

⑤基礎図

⑥標準施工方法

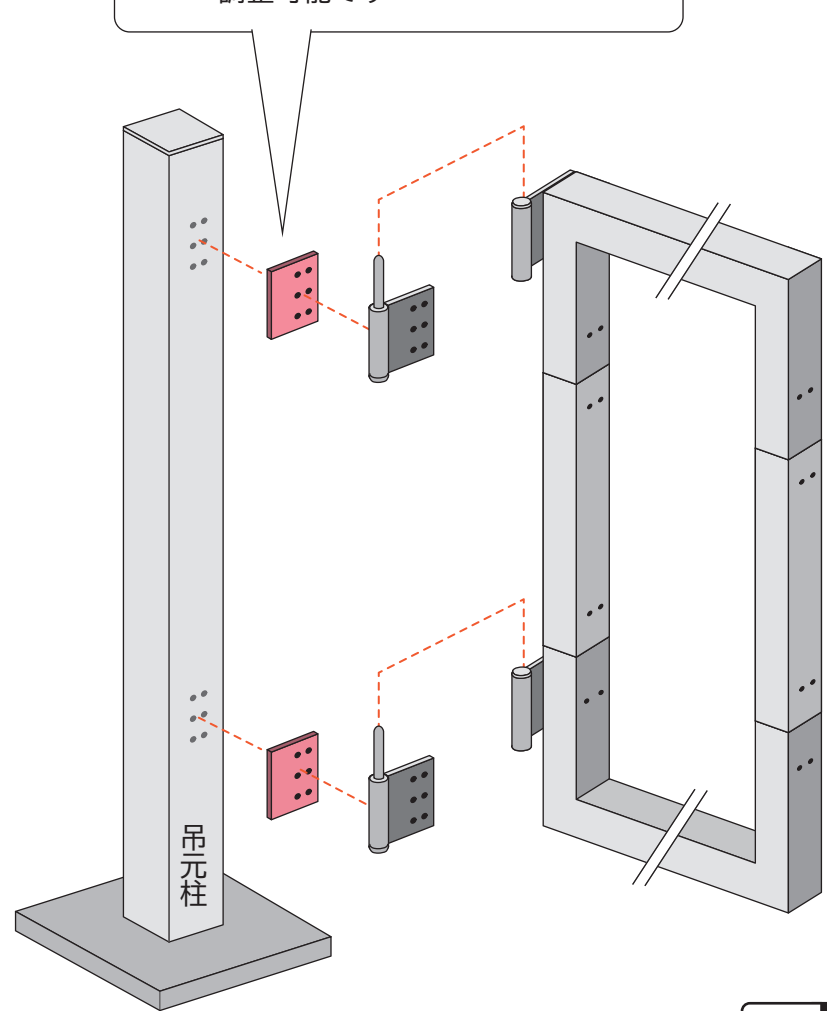
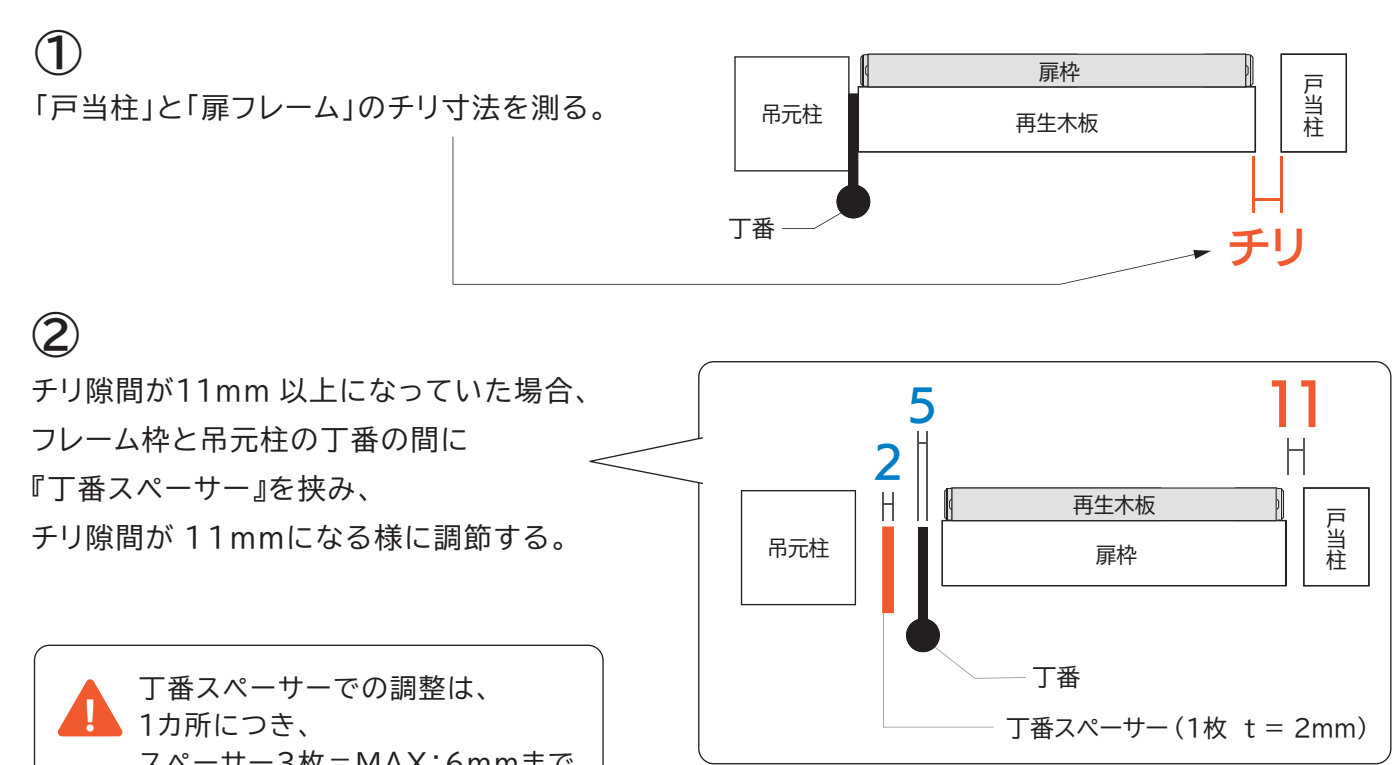
7 吊元柱に完成した扉フレームを取付する

①必ずお読み下さい
②最重要注意点
③梱包部材表
④組立概要図
⑤基礎図
⑥標準施工方法



8 扉フレームと戸当柱のチリを調整する

①必ずお読み下さい
②最重要注意点
③梱包部材表
④組立概要図
⑤基礎図
⑥標準施工方法



⚠ レバーハンドル仕様の場合

以下を必ずご確認ください。

①: 戸当柱とのチリ隙間が **11mm** になっているか

②: 扉枠のツラが、戸当柱と合っているか

ツラが平面

合わない場合は、現場に合わせて調節して下さい。チリ隙間が違った場合、この後のレバーハンドル取り付けに問題が出たり、扉枠が干渉して扉が開かなくなる可能性があります。ご注意下さい。

NEXT

- レバーハンドルの場合 ... P.20 へ
- 取手の場合 ... P.22 へ

9 レバーハンドル錠の場合

① 仮止めした扉枠を一旦取り外す。

② 『レバーハンドル』を、板の何段目に取付するか確認する。
※目安：GLより H=900mm 程度の位置付近で、現場にて調整ください。

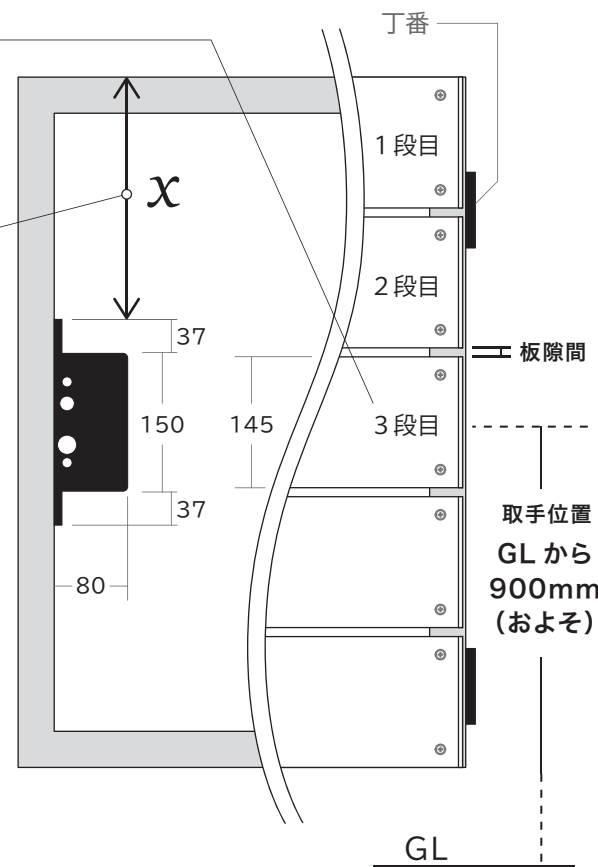
③ 『取付ボックス』の、取付位置を墨出する。

！ポイント 取付ボックス墨出

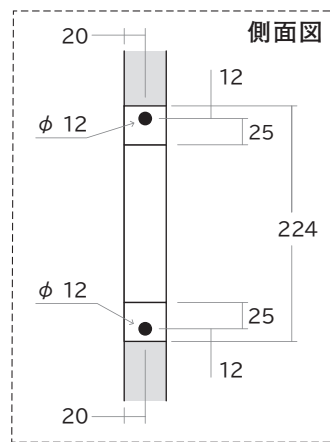
下記計算式で、取付ボックスの 上端まで の寸法を算出して下さい

再生木板	計算式
145×20	$X = (\text{板隙間} + 145) \times (\text{取付段数} - 1) - 39.5\text{mm}$
120×20	$X = (\text{板隙間} + 120) \times (\text{取付段数} - 1) - 52\text{mm}$

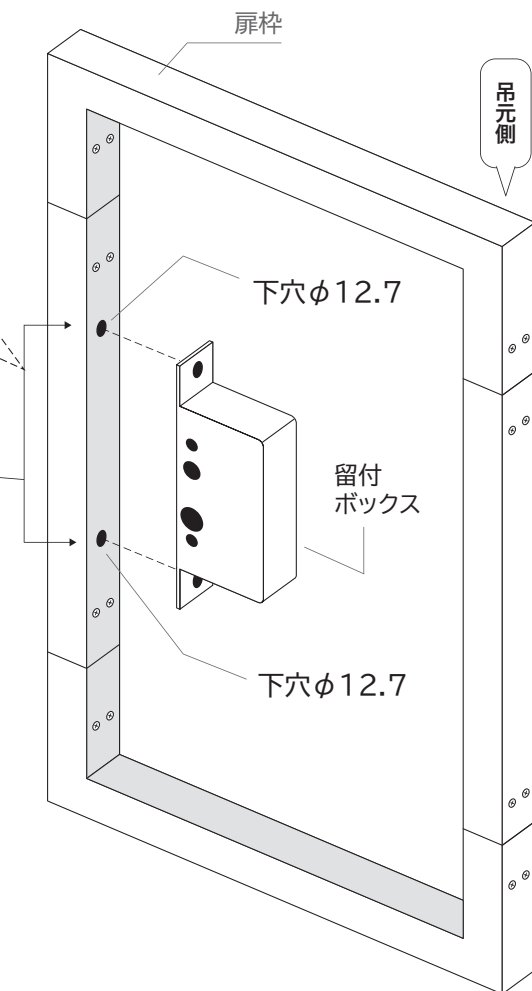
※ 板が、再生木板145幅・60幅の交互貼りの際は、145幅の板が取付ボックスの位置に来る様、板の位置を割り付けて下さい。



④ ③で計算した位置に『取付ボックス』を当て、孔位置を墨出する。



⑤ ④で墨出した位置に、ドリル加工でφ12.7mmの孔をあける。



！ポイント ボックスの位置

最終的には、再生木板も『取付ボックス』に留付する為、ボックスの位置にはご注意ください。

⑥ ⑤であけた下穴に、インプルナットを取付ける。

！ポイント インプルナット 施工方法

タブ先を指で持ち下穴にナット部分のみ挿入する。

アルミ柱断面 柱内側

挿入したら柱内部にナットを引っかけて、タブを折返し、タブが柱外側に出て、丸穴にひっかかるように置く。

タブを引きながらタブを折り返す

下図の通りに留付する。

⑦ 『取付けボックス』を付属のワッシャー・ボルトで留付ける。

！重要 ボックスの上下

ボックスは、一番大きな穴が下側 になるように、取付けて下さい。

！ポイント 板の取り付け

次ページでの、再生木板の取り付けは、レバーハンドルを取り付ける段のみビス留めせず、空けておいて下さい。

①必ずお読み下さい

②最重要注意点

③梱包部材表

④組立概要図

⑤基礎図

⑥標準施工方法

①必ずお読み下さい

②最重要注意点

③梱包部材表

④組立概要図

⑤基礎図

⑥標準施工方法

10 扉枠へ、再生木板と小物を取付ける

① 扉フレームの横寸法の実寸を測る。

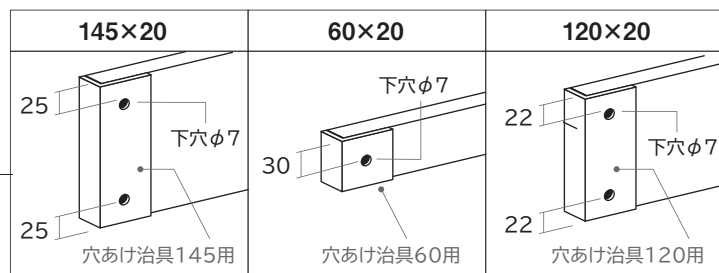
② 『再生木板』を、必要な長さにカットする。

※ 『レバーハンドル』仕様の場合、この時に取付け段の板も同じ長さでカットしておいて下さい。

! 再生木板のカット寸法は下記計算式で求めて下さい。

フレームの横寸法の実寸 - 12mm

③ 『再生木板』に、『穴あけ治具』でφ7mmの下穴をあける。



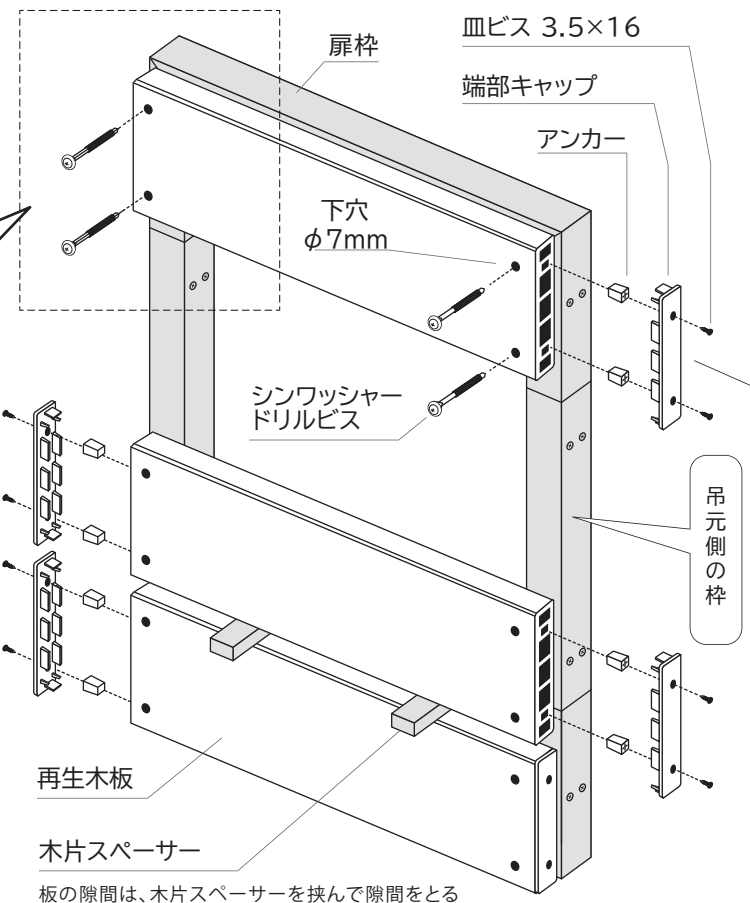
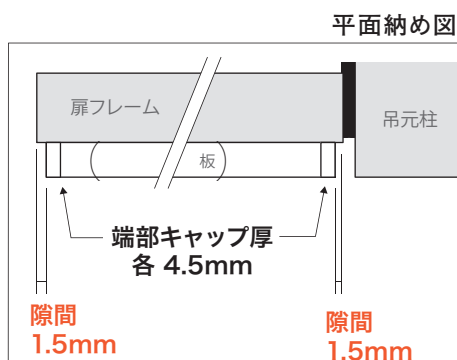
④ 『端部キャップ』を、『端部キャップ用 留付セット』のアンカーとビスを使って留付する。

⑤ 再生木板を『シンワッシャードリルビス5×45』で扉枠に留付する。留付する際は、P6の仕様番号を確認し、板端部の納めを調節して下さい。



下記の通り、板端部の留付位置を調節して下さい。

※ 調節しなかった場合、扉の開閉時に、扉枠と戸当柱が当たるおそれがあります。



NEXT

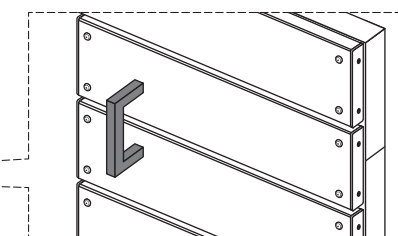
- レバーハンドルの場合・・・ P.24 へ
- 取手の場合…………… P.23 へ

11 取手を取付ける

① 取手の取り付け位置を設計する。

※目安：GLよりH=900mm程度の位置付近で、現場にて調整ください。

※下記図は、取手位置を、1枚の板に合わせていますが、板をまたいで取付する事も可能です。

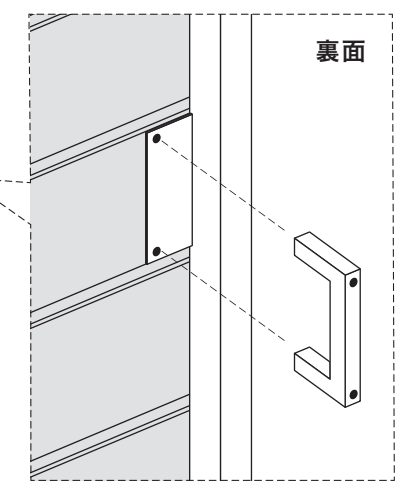
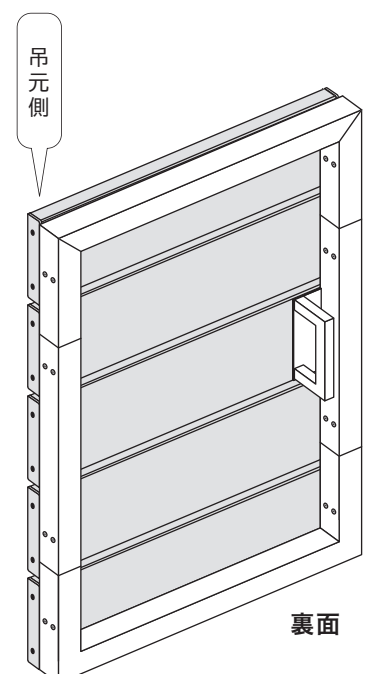
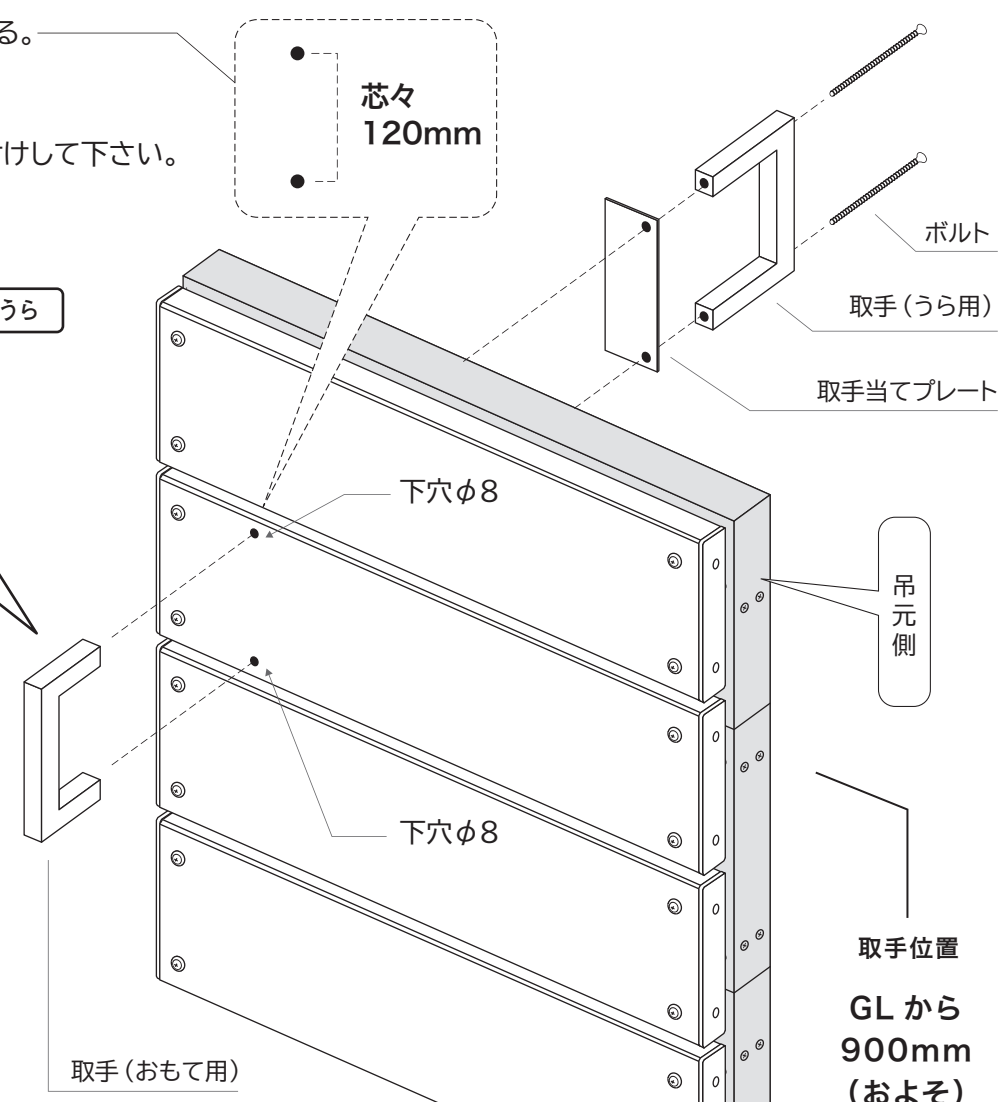


② 再生木板にルーズ孔をあける。

芯々 120mm

③ 絵図の通りに、ボルトで留付けして下さい。

! ポイント 取手のおもて・うら



NEXT

P.26 へ

①必ずお読み下さい

②最重要注意点

③梱包部材表

④組立概要図

⑤基礎図

⑥標準施工方法

①必ずお読み下さい

②最重要注意点

③梱包部材表

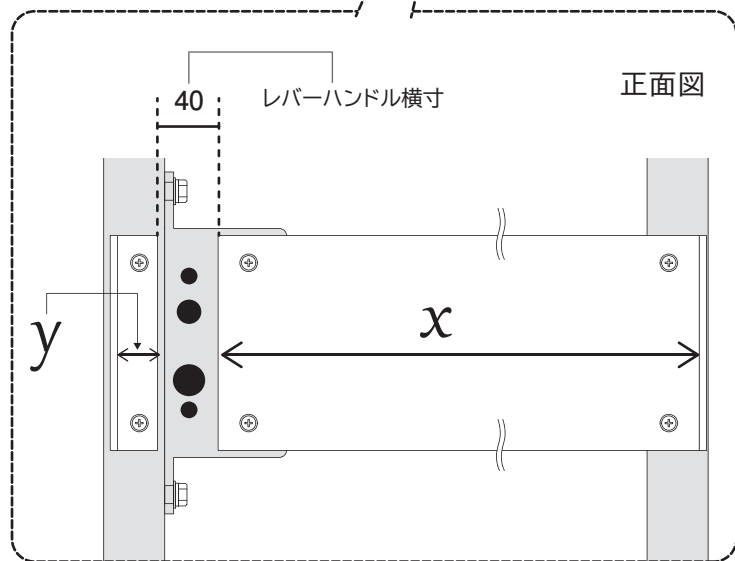
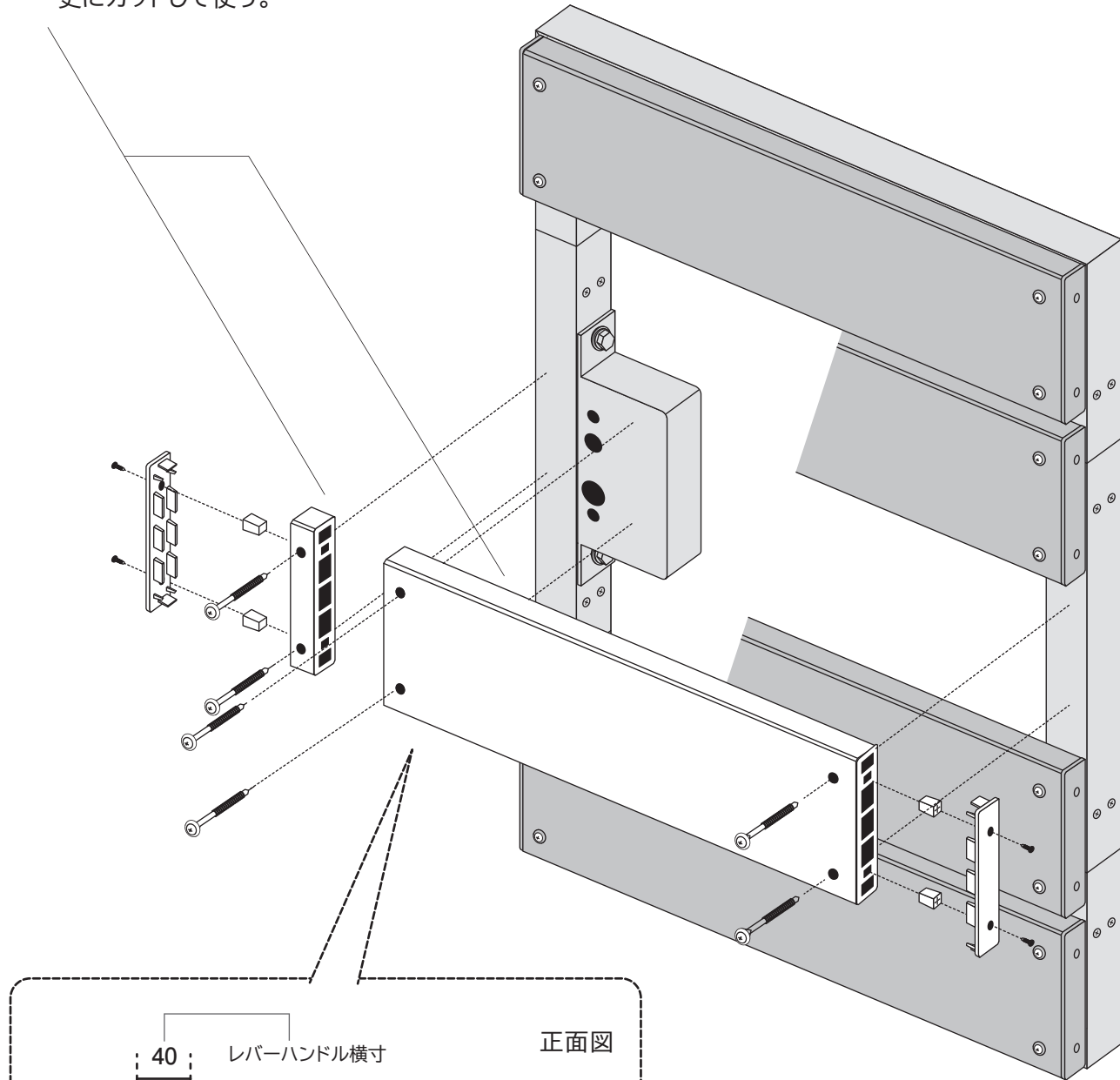
④組立概要図

⑤基礎図

⑥標準施工方法

12 レバーハンドルを取付ける

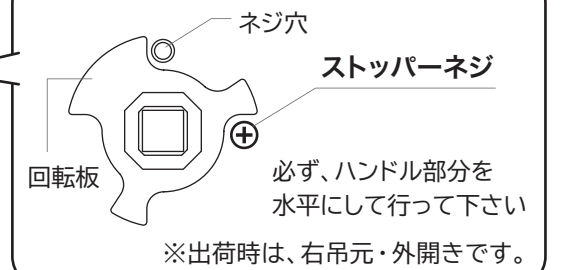
- ① 『レバーハンドル』を取付する前に、先に、レバーハンドルの取付段に、再生木板を取付ける。
板は、P12-②で多段と同じ長ささにカットしておいた板を、『レバーハンドル』の横幅分の長さを引き、更にカットして使う。



- ② xとyの板の長さは、それぞれ上下の板と端部がそろう様に、実寸を測ってカットして下さい。

- ① ハンドルの左右勝手と、内開き・外開きの設定変更をする。
『ハンドルA』の裏側にある、ストッパーネジの位置を、下記 < ストッパーネジの取付一覧表 > を基に変更する。

！ポイント ストッパーネジ位置変更

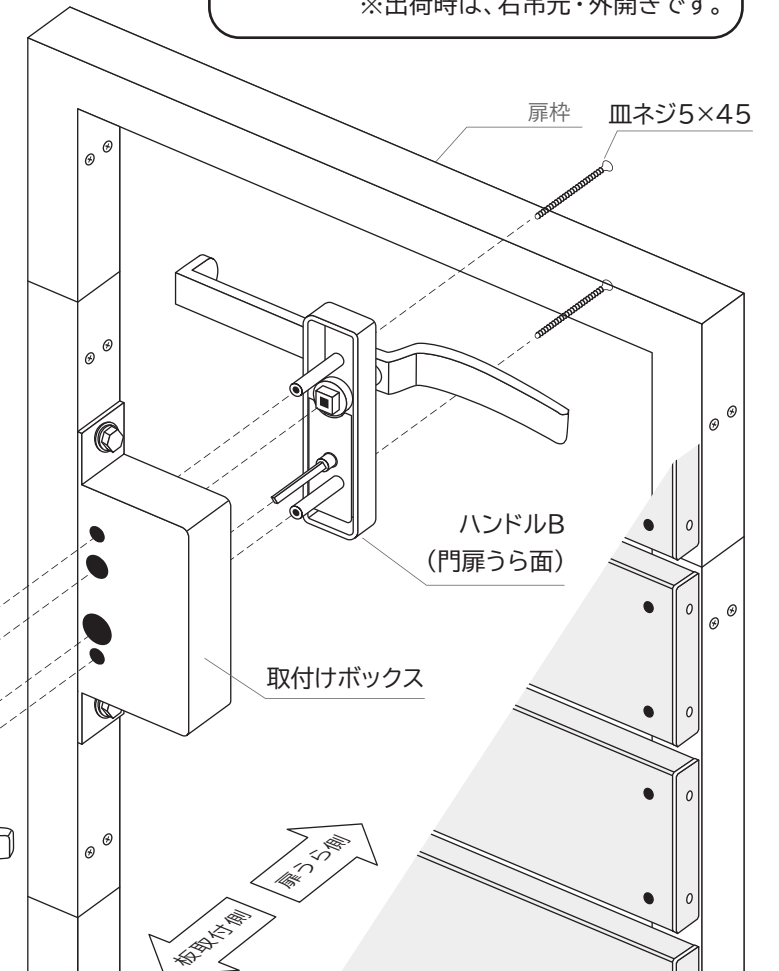


- ② 取付ボックスへ、ハンドルAとBを付属の『5×45 皿ネジ』で、取り付ける。

！重要 キーの穴の向き

キーを挿したまま錠の組付けを行うときは、キーの穴を正しい向きに合わせてください。正しい向きで組付けを行わないと、キーが抜けなくなります。(下記図参照)

ハンドルA (門扉おもて面)



● ストッパーネジの取付パターン表

左勝手 (吊元：左)		右勝手 (吊元：右)	
← 吊元 ←	 戸当柱	 戸当柱	→ 吊元 →
内開き	外開き	内開き	外開き (初期設定)

①必ずお読み下さい

②最重要注意点

③梱包部材表

④組立概要図

⑤基礎図

⑥標準施工方法

①必ずお読み下さい

②最重要注意点

③梱包部材表

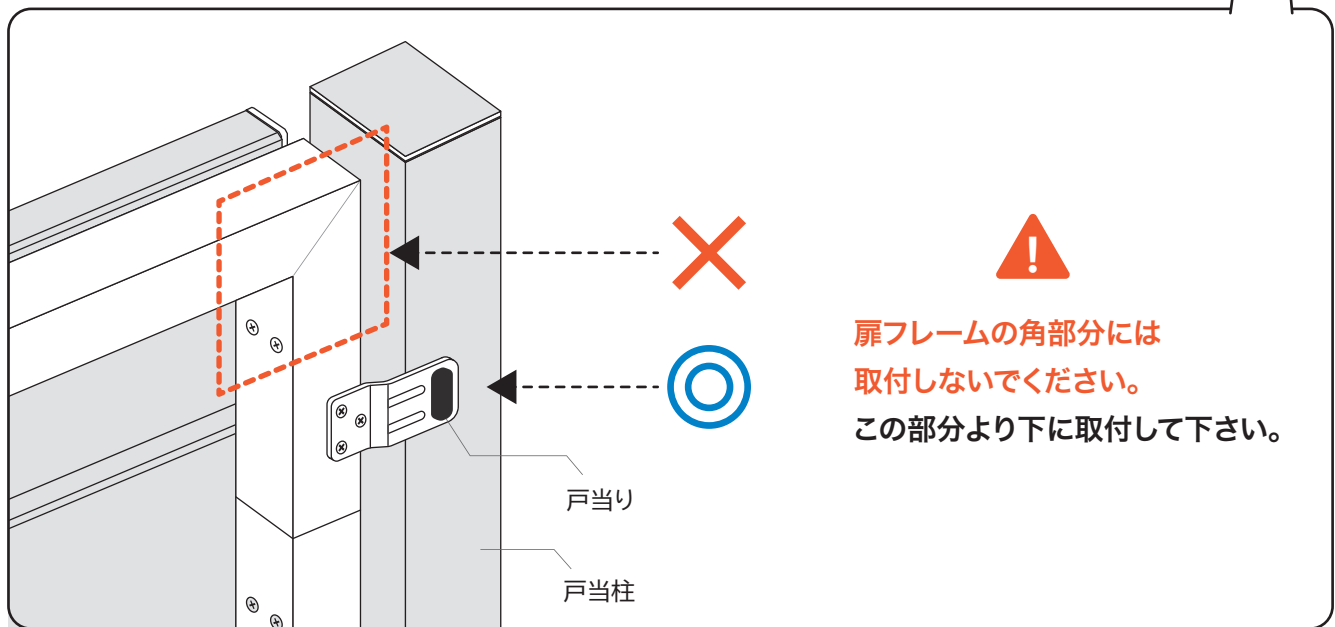
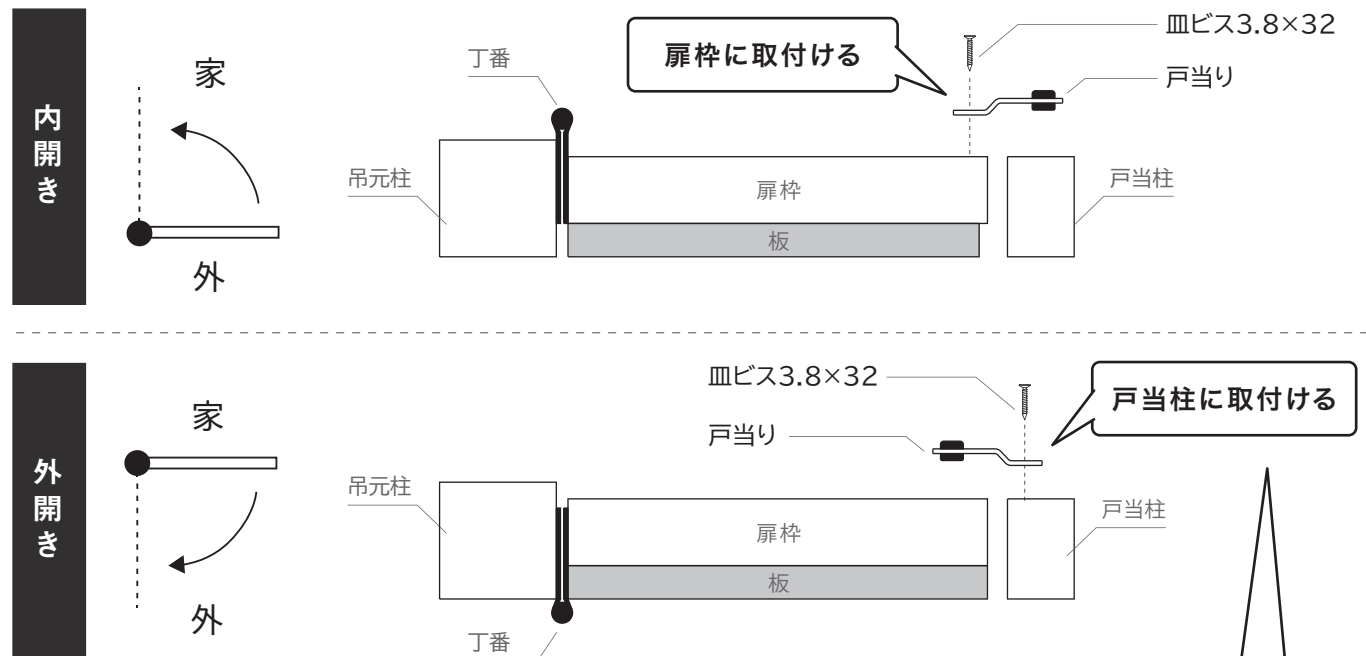
④組立概要図

⑤基礎図

⑥標準施工方法

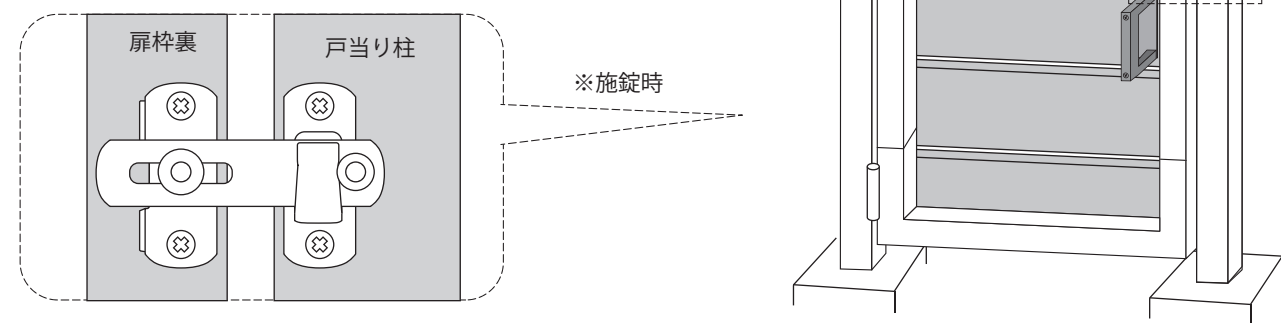
13 戸当りを取り付ける

① 『戸当り』を付属のビスで取り付ける。取付場所は、**内開きか外開きかで異なる**ので、注意して下さい。
戸当り取付位置の上下は、任意です。現場にてご調整下さい。

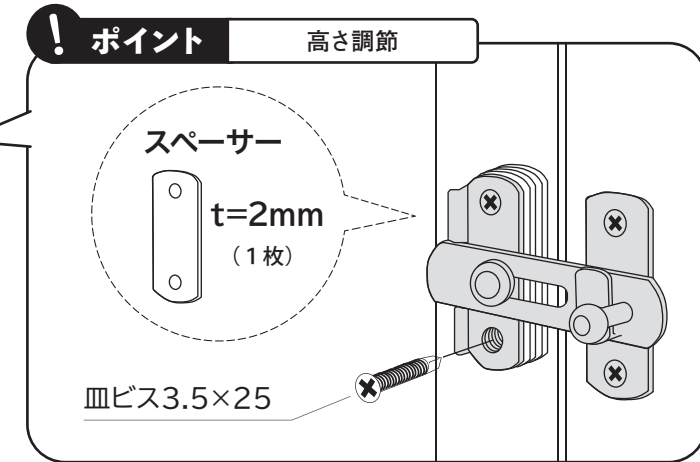
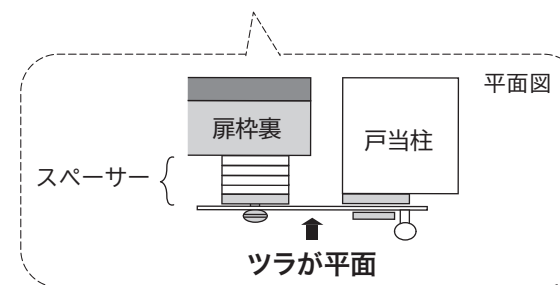


14 戸当柱に、打掛錠を取付ける

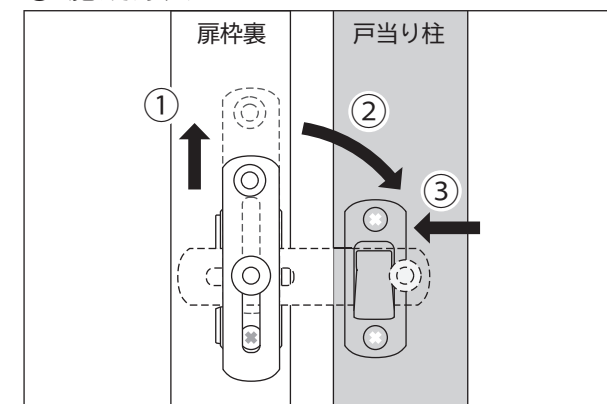
① 扉枠裏側と戸当り柱に内掛錠を取付ける。
任意の高さに墨付けし、
付属の 皿ビス3.5×25 を使用し取付ける。
※プレート裏側に、あらかじめ両面テープを施すと
柱への取付がスムーズです。



② 扉枠と戸当り柱に段差が生じた場合は、
付属のスペーサー (t=2mm) を
1枚~5枚重ねて使用し、高さを調節する。
プレート同士が平行に並ぶように設置する。

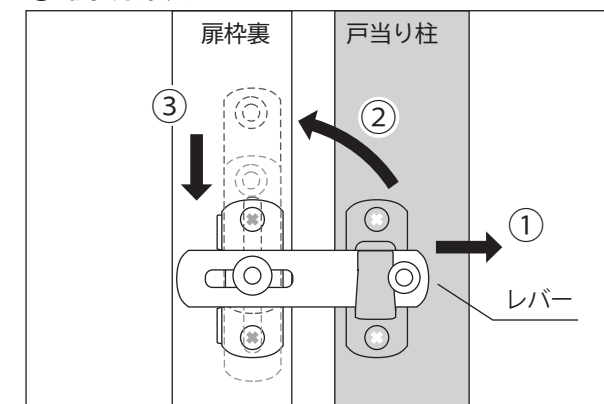


● 施錠方法



① : 下がっているレバーのツマミを持ち、上へスライドする
② : 時計回りに90度回しながら、受けのフックへ下す
③ : レバーを左にスライドさせて施錠

● 開錠方法



① : レバーツマミを持ち右へスライドさせる
② : そのまま反時計まわりに回しながら90度持ち上げる
③ : レバーを下に下げて開錠

(取手仕様) 完成です
お疲れ様でした

NEXT

- レバーハンドルの場合 ... P.28 >
- 取手の場合 P.27 >

15 戸当柱に、錠受けを取付ける

①必ずお読み下さい

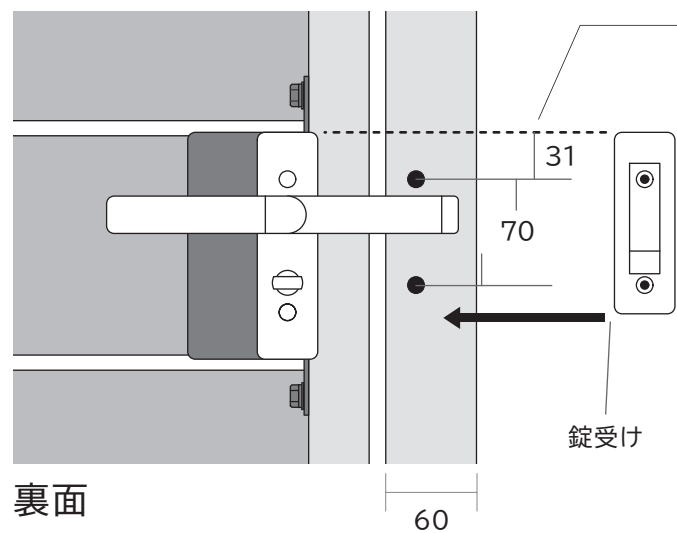
②最重要注意点

③梱包部材表

④組立概要図

⑤基礎図

⑥標準施工方法



① 錠受けの天端を、レバーハンドルの天端と合わせる。

② 戸当柱へ下穴を空けるための墨付けを2カ所分する。

重要 錠受けの位置

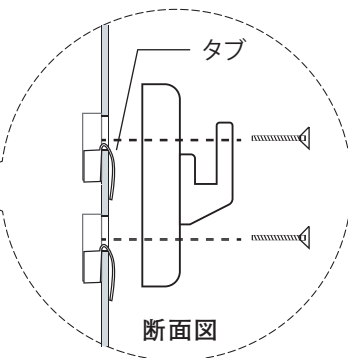
戸当り柱の60mmの面へ錠受けを取付ける際は錠受けをフレーム側によせて取付して下さい。レバーが届かなくなる恐れがあります。

③ 電動工具ドリルで、 $\phi 9.2\text{mm}$ の下穴を2カ所あける

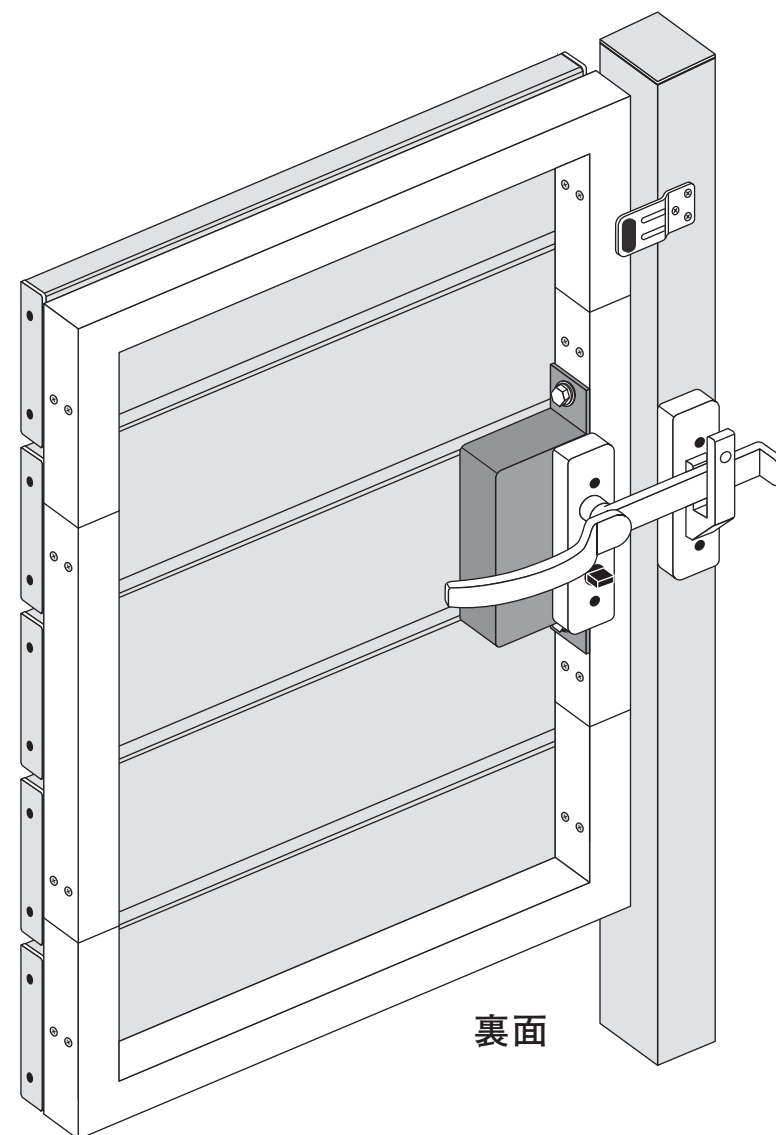
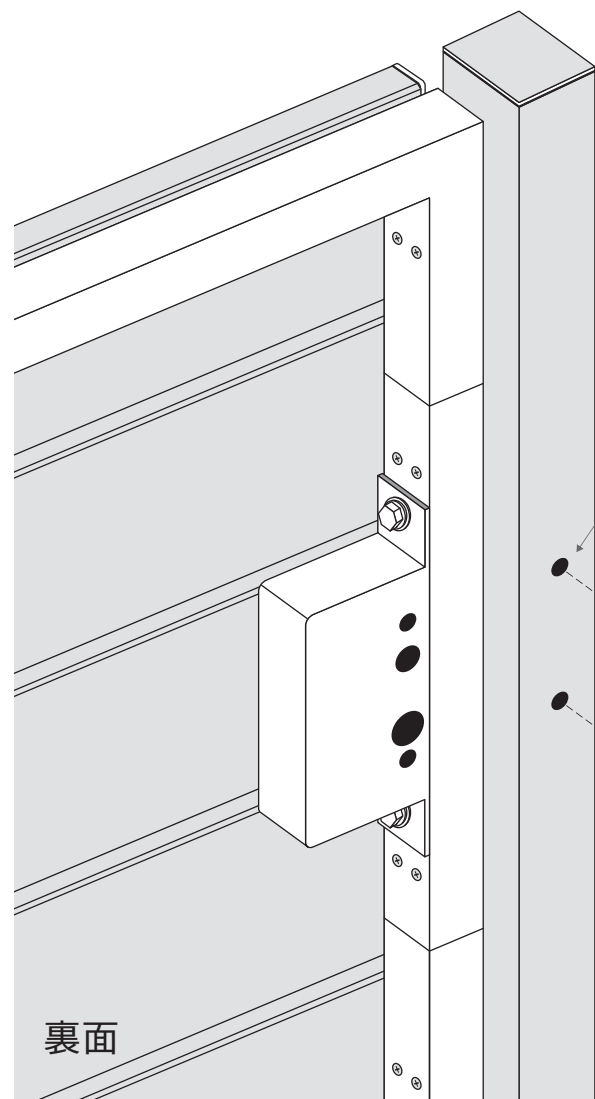
④ 下穴へ、インプルナットM5を挿入する。
挿入方法はP11を参照下さい。

下穴 $\phi 9.2\text{mm}$

インプルナット M5



⑤ 錠受けの穴に合わせて、 5×40 の皿ネジで留め付ける



(レバーハンドル仕様)
完成です
お疲れ様でした

メモ欄

①必ずお読み下さい

②最重要注意点

③梱包部材表

④組立概要図

⑤基礎図

⑥標準施工方法

製品注意事項

【再生木材の商品特性】

- 色や寸法に多少バラツキがあります。また、ご使用上で支障をきたさない範囲で変形する場合がありますので、予めご了承下さい。
- 温度や湿度変化等の自然条件により、伸縮・変形・膨張します。
- 木粉・プラスチックを配合して構成された製品ですので、伸縮・反り・たわみなどがあります。
- 製品には樹脂が含まれている為、帯電する事があります。
- 温度や湿度変化・紫外線曝露、又は使用上の摩擦等により、面材表面にチョーキング現象(色粉顔料離脱)や白点が発生する事がありますので、洗濯物を掛けたりもたれ掛かかる等はしないで下さい。
※衣類や洗濯物に付着した色粉は、付着等は洗濯でとれますが、繊維の網目間に入ると取れない場合があります。
- ルーバー材を運搬・保管する場合は、支持点(水平)を3点以上にし、平らな屋内で保管して下さい。
- 原材料にリサイクル木材・プラスチックを使用していますので、同じ商品の中でも色違いが生じる場合があります。
尚、商品の性能には問題は有りません。
- 再生木材は、場所や紫外線の当り具合で色差が発生します。

【施工上の注意事項】

- フェンスは防護柵や手摺の機能はありません。転落など重大事故が起きる恐れのある場所には設置しないでください。
- 現場の状況(風圧等)を考慮し、強度や安全性について十分に検討、確認した上で、柱の角数、芯材の有無をお選びください。
特に強風地域・風が集中しやすい場所・高台の上、その他準じる場所などに施工する場合は、鉄芯材等の補強材を追加して施工をすることをお勧めします。(鉄芯材は、オプションでご購入可能ですが受注品になりますので納期がかかる場合があります。)
- H2200以上の高さにする場合は鉄芯材を必ずご使用ください。
- アルミ柱をたてる場合は、凍結破損を防ぐため、必ずφ4mm以上の水抜き穴を支柱にあけてください。
- 再生木は製造時、L1995・L2200の定尺にカットされていますが、季節や昼夜の寒暖差・日当たりによって伸び縮みし、多少長さの違いがでます。
施工前に再生木板の長さをご確認ください。
- 通常、目地は5mmが目安ですが、上述の理由により夏季施工の場合5mm、冬季は7mm程度を目安に、隙間をあけることを推奨します。
- 再生木は伸縮する為、各φ7mmの下穴径を必ずあけてください。
- 柱は芯々1000mmピッチ以内で施工してください。
- H1200mm超はブロック上への施工はできません。
- 再生木は中空材の為、端部は意匠上キャップを付けることをお勧めします。(納まり図を参照)
(推奨接着材：ウルトラ多用途SU)で留め付けして下さい

【安全・施工環境についてのご注意】

- 隣地境界を目的に設置するもので、防護柵や手摺の機能は有りません。転落など重大事故が起きる恐れのある場所には設置しないでください。
- フェンス本体・柱には負荷を掛けないようにして下さい
- 重量物の立て掛け・洗濯物や寝具類を干す・その他過度の荷重を掛ける等、本来の用途以外で使用しないで下さい。変形や破損、事故の原因となります。
- 製品は、建築基準法の不燃・準不燃・難燃材料ではありません。バーベキュー・ガスコンロ・たき火・火のついたタバコ等、高温になる物や火気を周辺で使用したり、近づけたりしないで下さい。また、給湯器・暖房器などの排気熱が商品に直接あたる場所には施工しないでください。熱による部材の変形・劣化のおそれがあります。
また、設計上ご使用場所によっては関係法規により使用制限を受けますのでご注意下さい。
- 夏期の直射日光で表面が熱くなります。特に乳幼児が触れる環境ではご注意下さい。
- 土中・水中への製品直接埋め込みや、常に水分に晒される状態は、変形や不具合・事故の原因となります。
- 製品の設置については、場所に応じた強度計算等により、安全性を十分に検討の上、施工して下さい。
- 過度の集中荷重や人的荷重等の外力が加わる事が想定される場合は、別途に強度計算をして下さい。
- 設置・施工後は、変形・破損等の外観異常やガタツキ・緩みが無いか、定期的に点検を行なって下さい。
- 腐食性ガスや海水、あるいは砂塵にさらされるような環境や、積雪地帯で使用する場合は、設置場所の環境を十分に調査の上ご使用下さい。
- 製品結合部の突き付けは避けてください。
- アルミ柱は、強風地域・風が集中しやすい場所・高台の上・その他準じる場所などに施工する場合は、鉄芯等を追加して施工して下さい。
※この様な場所でのブロック上の施工はできません。コンクリート基礎等で施工して下さい。
- 空洞ブロックでの施工は、厚み12cm以上かつC種の性能以上のものをご使用下さい。
- 柱埋め込み時には、腐食性の強い塩素系や強アルカリ系硬化促進剤、バサモル等は使用しないでください。
- 防水モルタルをご使用ください。
- デザイン上、大きな隙間ができた場合、子供が登ったり、くぐったりして遊ばないようにご注意ください。落下や挟まれる事故などのおそれがあります。

MEMO